

合理的な費用を考慮した価格形成について (野菜WG)

MAFF

Ministry of Agriculture,
Forestry and Fisheries

農林水産省

2025年2月7日

新事業・食品産業部

目次

1	前回の振返り・・・・・・・・・・	2
2	検討の方向性・・・・・・・・・・	8
	（1）合理的な費用を考慮した価格形成・・・・・	8
	（2）持続的な食料システム・・・・・・・・・・	17
3	《参考》コスト構造の実態調査について・・・・・	20

1 前回の振返り



御議論いただきたいこと

以下の点について、御議論いただきたい。

コストについて

- コストをどのように把握しているのか（品目別・費目別にコスト管理が出来ているか）。
- コストをどのように取引先に説明しているのか。

取引の実態について

- 各段階の価格は、どのように決定されているのか。
- 交渉において、コストが考慮されているのか。
- 価格交渉や契約などの取引実務において、どのような課題があるか。

供給の持続性について

- 現状、持続的な供給に支障が生じているのか。それを表す具体的なデータ・ファクトは何か。（野菜のうち、具体的にどの品目について供給の持続性に支障が生じているか。）
- 供給の持続性を確保していくために、これまでの取引の慣行や業務のあり方について、見直しが必要か。
- 供給の持続性を確保するために価格転嫁を行えば、最終的には消費者の購入価格が上がり、消費量が減少する可能性もあるが、どのように対応すべきか。

3

前回の協議の整理①（コスト）

	生産	製造	卸売/仲卸	小売/消費
コストの把握/説明	・ 令和3年からほぼ全ての野菜の品目で、流通コストや肥料、農薬といったコストの上昇分を計算し、卸売市場を含む各取引先に説明を継続している。 ・ 主要品目の生産費を積算し、全国の取引先に示して理解を求める活動を毎年行っているが、コストが反映された価格での取引には至っていない。 ・ 契約販売ではコストを踏まえて価格交渉にあたっているが、「その価格では買えない」という場面も多い。	・ <u>全てのコスト（単価、歩留まり、廃棄、人件費、光熱費等）を日々収集している。</u> ・ 売上高、仕入高、在庫金額、経費を集計し、<u>日々の収益を算出している。</u> ・ コストを率で提示する場合や、コストの上昇を<u>実額で提示</u>する場合がある。 ・ 増加している様々なコストを<u>しっかり説明した上で、コストを反映させた売価で交渉・値決めることが会社の方針。</u>	・ <u>卸売業者のコストは品目ごとでは管理できないので、損益計算書等からコストを推定</u>するしかない。 ・ <u>産地から再生産価格が示されているのは全体の4割くらい。</u>要望されたものについては<u>極力尊重するよう</u>に対応している。 ・ 出荷者からは、8.5%の委託販売手数料をいただいている。安定的な出荷を確保するため、手数料率は自由化された後も35年間固定化されている。昨今の光熱費、物流費、人件費の高騰といった<u>コストの上昇は考慮していない。</u> ・ 出荷者に対しては、売上高、販売高の平均1.7%もの出荷奨励金を支払っている。	・ <u>コストの部分把握</u>することは再生産価格の把握を含めて<u>非常に大切で、取組は重要。</u> ・ 長期的に生産者を支援する意味からも<u>コストの把握・見える化は必要。</u>

4

前回の協議の整理②（取引・コスト考慮の実態・取引上の課題）

	生産	卸売/仲卸	小売	消費
取引・コスト考慮の実態 / 取引上の課題	- 青果物の価格は、<u>主に需給により決定</u>される。卸売市場流通が大半を占める状況において、<u>生産・流通コストを価格に反映しづらい構造</u>。 - 年によっては、<u>生産コスト上昇に対し市況価格の上昇が追いつかない</u>状況も多く見られ、生産現場としては苦しい状況。 - 産地からの輸送運賃は、産地負担が商慣習となっている。高価格ではない青果物において、<u>物流費の上昇は影響が大きい</u>。 - 店内ロスが多い軟弱野菜の分も、日持ちのする土物で値入れを持っていれば、市場の<u>卸売価格が適正に反映されない</u>場面もある。 - 店頭売価が決まっていて、それから逆算して1パックいくらで売ってくださいと言われることも多く、<u>市場相場は考慮してもらえない</u>。 - 燃料やエネルギーを沢山使うが、<u>価格に全然転嫁できていない</u>。	- 市場取引においてコストを考慮することは<u>基本的に困難</u>。 <u>じゃがいもやたまねぎといった貯蔵性の高い一部の品目</u>については、出荷者側の希望価格も踏まえて、<u>数量を調整しながら販売</u>している実態はある。 - 卸売市場の中核的な機能は、需給を反映した透明性・信憑性の高い価格形成なので、<u>需要がないのに値段を上げることはまず考えられない</u>。 - 産地側が集約化し、市場への発言が年々強まっている一方、市場の相場は、量販店等の買い手側の強力なバイイングパワーのもとで形成されているので、産地側と買い手側の<u>要求価格のギャップを卸売業者や仲卸業者が被っている</u>。	- 消費者の節約志向は一層高まっており、<u>コスト上昇分を販売価格に全て転嫁することは簡単なことではない</u>。小売業は<u>板挟み</u>になっている現状。 <u>生産者側のコスト等をしっかり意識しての仕入れはできていない</u>。コストは含まれていることが前提で1、2週間先の見積もりで仕入れを行うことが通常。現状の基本的な仕入れは、卸売→仲卸の流れで見積もりをいただく形が大筋。 <u>差別化や独自性のある商品</u>に関しては、<u>コスト意識をもって仕入</u>を行う場合も増えてきている。	- 野菜は需給バランスで価格が決まり、天候や生産時期により価格が変動することについては、消費者もある程度理解した上で<u>価格の上昇を受け入れることができる</u>。 - 野菜は代用も買い控えも可能であるため、<u>購買の主導権、判断の基準は消費者の状況と選択</u>によるものである。 - 消費者は、自分の中に<u>野菜の値ごろ感</u>がある。 <u>規格外品</u>であっても美味しさや品質に問題がないものを<u>受け入れる許容は十分</u>ある。流通事業者もその点を理解した上で、幅広く提供の場を設けてほしい。

5

前回の協議の整理③（供給の持続性）

	生産	卸売/仲卸	小売/実需	消費
供給の実態 / 見直し提案	- 基幹的農業従事者数が<u>100万人減少</u>しており、この<u>20年近くで半減</u>している。 - 耕作面積の減少・生産地の人口減少については、特に<u>中山間地域で顕著</u>であり、農畜産物の安定供給が危ぶまれている。 - ばれいしょとたまねぎを除いた青果物の作付面積が、<u>15～20年前から半減少</u>。特殊な品目を除き<u>全品目で減少</u>しているのが実態。 - 離農者がいる中、家庭内労働力で管理するために、<u>野菜ではなく大規模に管理できる小麦、大豆等に移り変わっており、野菜供給の持続性が危ぶまれている</u>。	- 野菜の取扱数量は<u>10年前の2割減</u>。卸売市場としても、担い手の高齢化、後継者不足といった<u>生産基盤の脆弱化を懸念</u>している。 - 野菜は市場経由率が80%近くある中、<u>卸・仲卸売業の経営が安定しなければ、消費者への供給の持続性も危ぶまれる</u>。 - 適正な価格形成と併せて、<u>経営安定対策の充実</u>や、担い手の高齢化や後継者不足に対応した<u>規模の拡大、スマート農業といった構造対策が不可欠</u>ではないか。	- SMの経営や運営に対するコストは急激に上昇。デジタル化や生産性向上といった努力はしているものの、なかなか<u>利益を出しにくい</u>状況。 <u>全ての野菜に供給の持続性の懸念があるとは思えないので、どこにどんな問題があるのか、検証していくことが必要</u>。 - 農業従事者は2023年で116万人と18年間で100万人減り、平均年齢は68.5歳で<u>65歳以上の人がほとんど</u>。<u>作付面積も減少し空地（※荒廃農地）も28万haある</u>。	- 消費者は流通している野菜の生い立ちを知ることや、生産者の努力に思いを馳せ、<u>寄り添いたいという気持ちは以前よりも醸成</u>されていると感じている。 - 価格が安いスーパーに人が多く集まるなど安いことはありがたいが、その裏でどのようなになっているかと思いを馳せることがある。<u>生産者や流通業者、小売業者、消費者がWIN-WINになるようなことができないと、うまくいかない</u>。 <u>食料自給率</u>がここ何十年も<u>低いことも気になっている</u>。

6

以下の点について、野菜全体か、一部の特定の野菜を念頭に置いたものを明らかにした上で、さらに御議論いただきたい。

コストについて

- 販売先へのコストの説明について、どういったレベルで可能か。具体的には、
 - ① コストの内容（例：コスト全体か肥料代など一部のコストか、コストの実額か前期との変動額か、など）、
 - ② コストの具体的な算定方法（例：伝票等を推計、政府統計から推計など）、
 - ③ 頻度（例：シーズン/月/週単位など）などをご教示いただきたい。
- 現在行っている販売先へのコストの説明の具体的方法（例：シーズン前に市場関係者向け説明会を開催など）や頻度をご教示いただきたい。

取引の実態について

- 売り手（産地）からコストの説明があった際の具体的な対応方法（例：産地説明資料等を社内で共有など）をご教示いただきたい。
- 各段階の仕入価格について、具体的な決定方法（例：直近や前シーズンの平均仕入価格を参照、直近POSデータと各社標準粗利率から算定など）をご教示いただきたい。

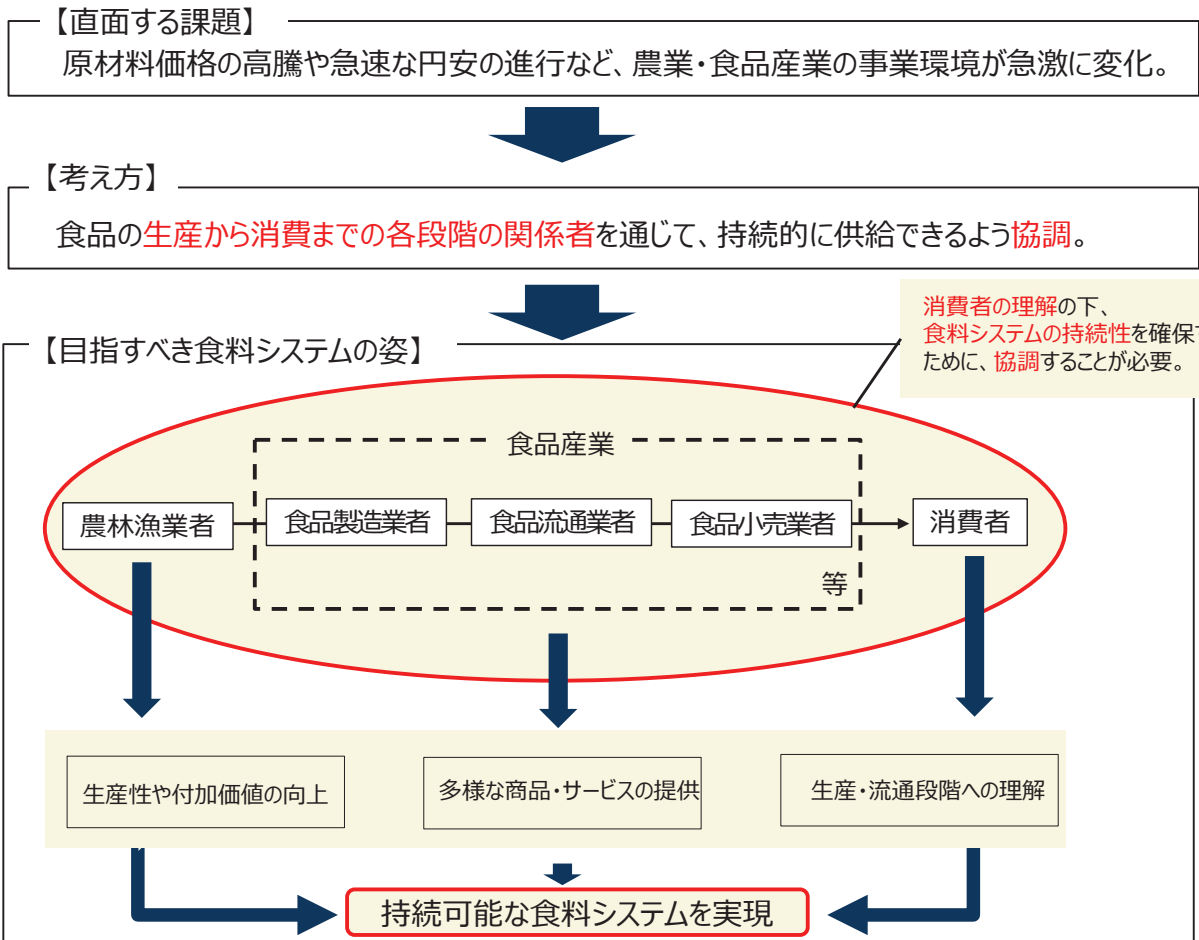
供給の持続性について

- 持続性が危ぶまれていることについて、消費者をはじめ食料システムの関係者に広く理解が得られるような、データ・ファクトは何か。
- 供給の持続性を確保するために価格転嫁を行えば、最終的には消費者の購入価格が上がり、消費量が減少する可能性もあるが、どのように対応すべきか。（再掲）

2 検討の方向性

（１）合理的な費用を考慮した価格形成

食料システムを通じた食料の持続的な供給①



9

適正な価格形成に関する協議会

10

構成員

【生産者】			
全国農業協同組合中央会	馬場 利彦	専務理事	
全国農業協同組合連合会	齊藤 良樹	代表理事専務	
日本農業法人協会	井村 辰二郎	副会長	
中央酪農会議	隈部 洋	副会長	
【製造業者】			
食品産業センター	荒川 隆	理事長	
日本乳業協会	宮崎 淑夫	専務理事	
【流通業者】			
全国中央市場青果卸売協会	出田 安利	専務理事	
日本加工食品卸売協会	時岡 肯平	専務理事	
【小売業者】			
日本チェーンストア協会	牧野 剛	専務理事	
日本スーパーマーケット協会	江口 法生	専務理事	
全国スーパーマーケット協会	島原 康浩	常務理事	
【外食・中食業者】			
日本フードサービス協会	坂本 修	専務理事	
日本惣菜協会	黒田 久一	副会長	
【消費者】			
日本生活協同組合連合会	二村 睦子	常務理事	
全国消費者団体連絡会	郷野 智砂子	事務局長	
主婦連合会	田辺 恵子	副会長	
【学識経験者】			
九州大学	福田 晋	名誉教授	
宮城大学	三石 誠司	副学長・教授	

開催実績・予定

月日	会合
令和5年 8月29日	第1回 適正な価格形成に関する協議会
10月11日	第2回 適正な価格形成に関する協議会 → ワーキンググループの設置を決定
20日 30日	第1回 飲用牛乳ワーキンググループ 第1回 豆腐・納豆ワーキンググループ
11月17日 28日	第2回 飲用牛乳ワーキンググループ 第2回 豆腐・納豆ワーキンググループ
12月27日	第3回 適正な価格形成に関する協議会
令和6年 2月9日	第3回 豆腐・納豆ワーキンググループ
3月15日	第3回 飲用牛乳ワーキンググループ
4月5日	第4回 適正な価格形成に関する協議会
8月2日	第5回 適正な価格形成に関する協議会
10月24日	第6回 適正な価格形成に関する協議会 → ワーキンググループの設置を決定
11月5日 6日	第1回 米ワーキンググループ 第1回 野菜ワーキンググループ

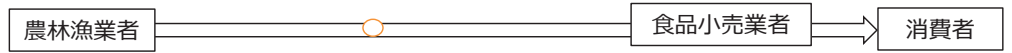
10

食料システムを通じた食料の持続的な供給②

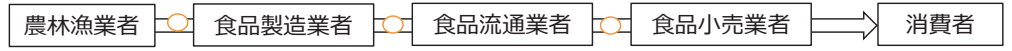
- 食品の合理的な費用を考慮した価格形成のためには、
①コストの把握・明確化、②コストを考慮した取引の実施、③消費者の購買力の確保が必須。

《食品をめぐる様々な取引》

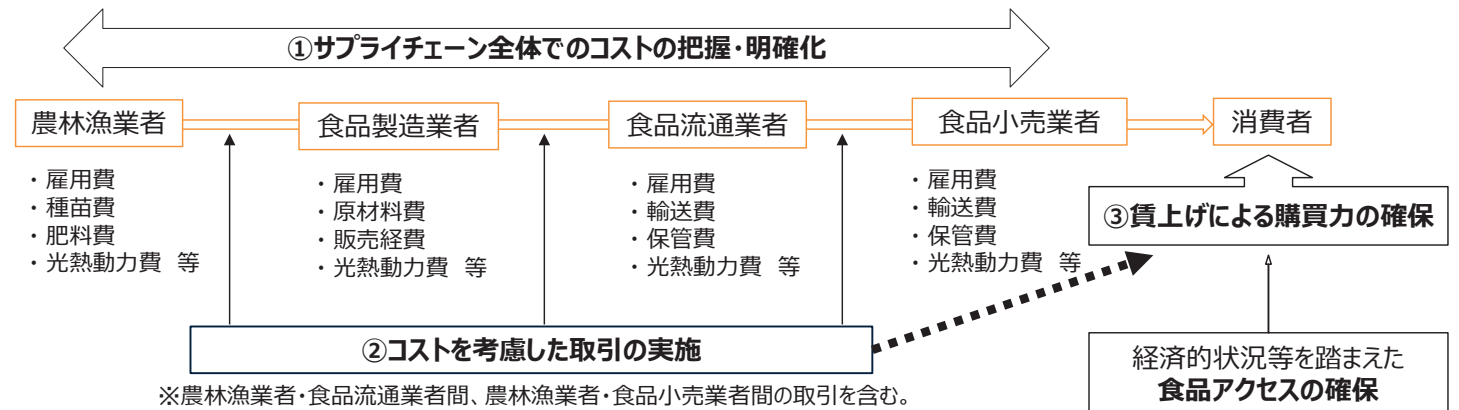
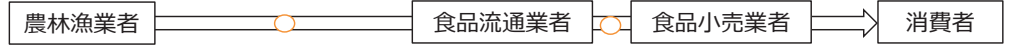
- 「生鮮品」として
「食品小売業者」と取引



- 「加工原材料」として
「食品製造業者」と取引



- 自ら一次加工等したものを
「食品流通業者」と取引

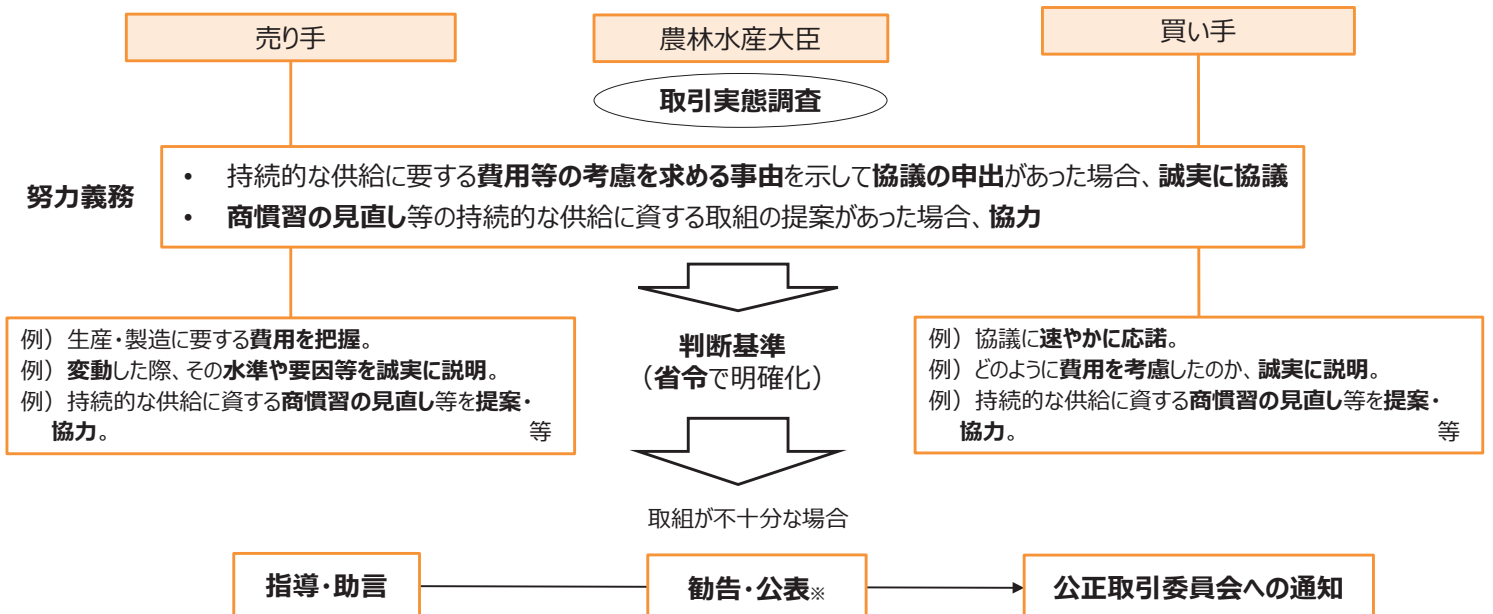


11

規制的措施（全体像）

- 最終的な取引条件は**当事者間で決定**という自由主義の前提を維持した上で、飲食料品等事業者等の「**努力義務**」を明確化。
① 持続的な供給に要する**費用等の考慮を求める事由**を示して**協議の申出**があった場合、**誠実に協議**
② **商慣習の見直し**等の持続的な供給に資する取組の提案があった場合、**協力**
○ 農林水産大臣が、努力義務に対応した「**行動規範**」（**判断基準**）を省令で明確化。取組が不十分な場合等は、**指導・勧告**等。

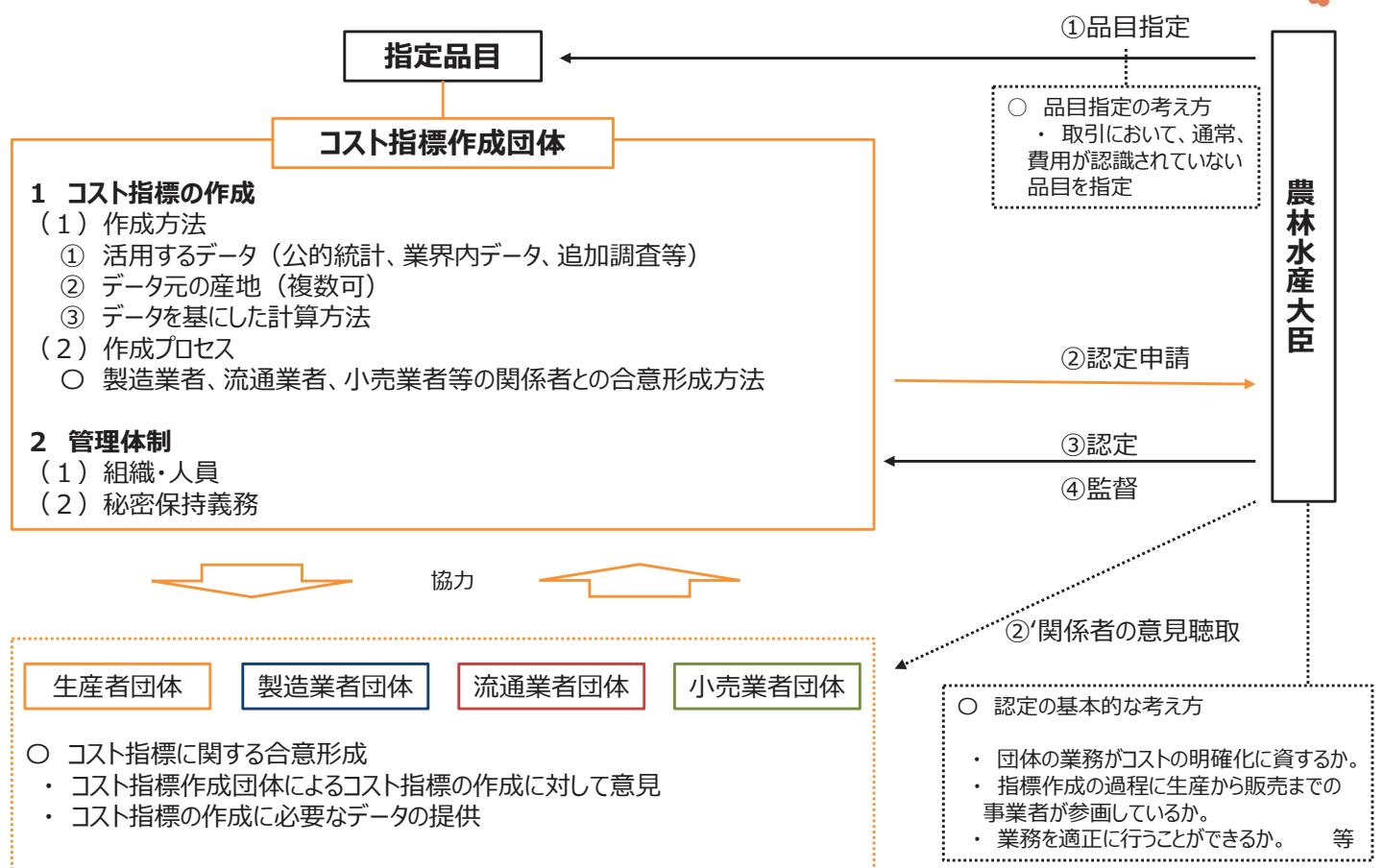
【新たな仕組み】 需給や品質を基本としつつ、**合理的な費用を「考慮」** ～規制的措施の導入～



※ 勧告に必要な限度において、報告徴収・立入検査（罰則あり）を実施。

12

品目の指定／コスト指標の作成



13

規制的措置の流れ

○ **食料全般**に関して、**実態調査**を実施。努力義務・判断基準に照らして取組が不十分な場合、**規制的措置**を実施。

《取引実態調査》 ○ **食料全般**に関する実態調査に基づき、費用、取引価格等を把握。

《努力義務》 ～規制的措置として導入～

- 持続的な供給に要する**費用等の考慮を求める事由**を示して**協議の申出**があった場合、**誠実に協議**。
- **商慣習の見直し**等の持続的な供給に資する取組の提案があった場合、**協力**。

《判断基準》

売り手	買い手
～詳細は省令で規定～	

《指導・助言》 ○ **不十分な取組**を確認した場合、当該食料関係事業者を対象に指導・助言を実施。

《報告・立入検査》 ○ 指導・助言後も**依然取組が不十分**な場合、必要に応じて報告を求め、立入検査を行い、実態を詳細に把握。

《勧告・公表》 ○ **依然取組が改善されない**場合、実態の改善を勧告。勧告に従わない場合、**事業者名、勧告した旨を公表**。

注）報告・立入検査、勧告・公表は指定品目を対象に実施

《公正取引委員会への通知》 ○ **不公正な取引方法に該当する事実**があると考えるときには、公正取引委員会に通知。

14

《参考》 不十分な取組のイメージ

- 判断基準に照らして取組が不十分な場合の**代表的な適用対象**は、以下のようなものを想定。

【価格交渉の拒否】

- 売り手からコスト上昇やコスト指標の変動を理由とした価格交渉を申し入れたにも関わらず、**協議に一切応じない。**
- 費用の考慮に関する見解について説明を求めても、**一切回答がない。**
- 価格交渉に際し、**過度に詳細な費用の内訳の提出**を求められ、費用の考慮の状況に関する見解について説明がない。



【補助金等を理由とする値引き要請】

- 売り手の支援を目的とした国による**補助金等の支援措置**を理由とした**当該支援分等の値引き要請**を行う。



【納品価格の一方向的決定】

- 合理的な消費者の値頃感等を理由として、**コストを著しく下回る価格**での納入を**一方向的**に求めることが**常態化**している。



【商慣習の改善に対する一方向的非協力】

- 人手不足、物流コストの上昇等を背景とした納品頻度の削減等に対し、**商品で常時棚を埋めることを過剰に優先し、一方向的に協力しない。**

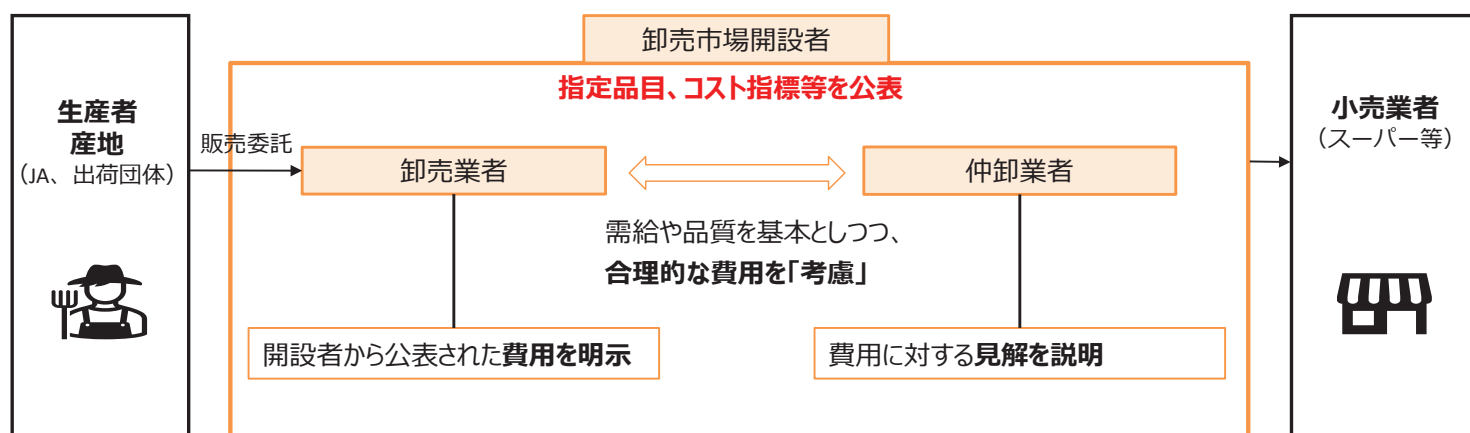


15

市場取引での対応

- 卸売市場では、**価格を調整弁**として、出荷された青果物等を**早急に売買**。
- 卸売市場でコストを考慮するため、**開設者が指定品目、コスト指標等を公表**。

○ 市場取引でのコストの考慮



(運用) ・貯蔵性の高い品目 ・売残りの場合には、翌日持越し ・取扱数量を設定 等

16

2 検討の方向性

(2) 持続的な食料システムの確立

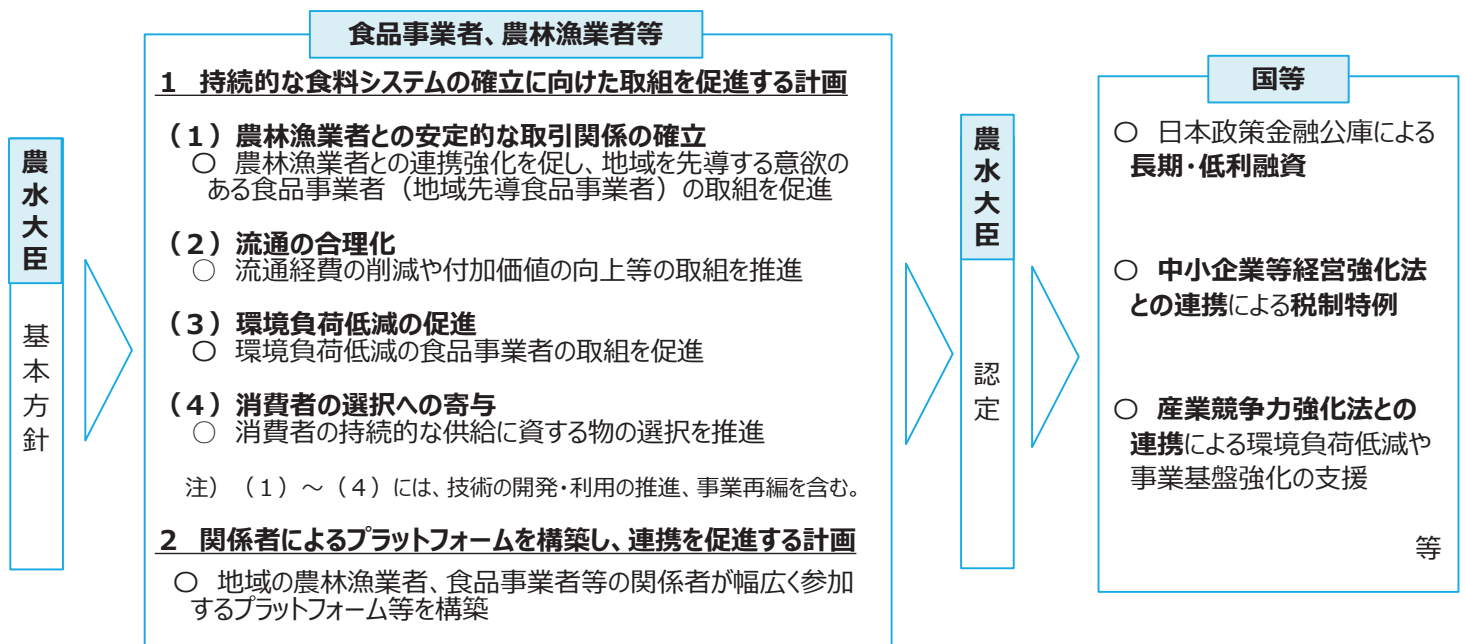


17

計画制度

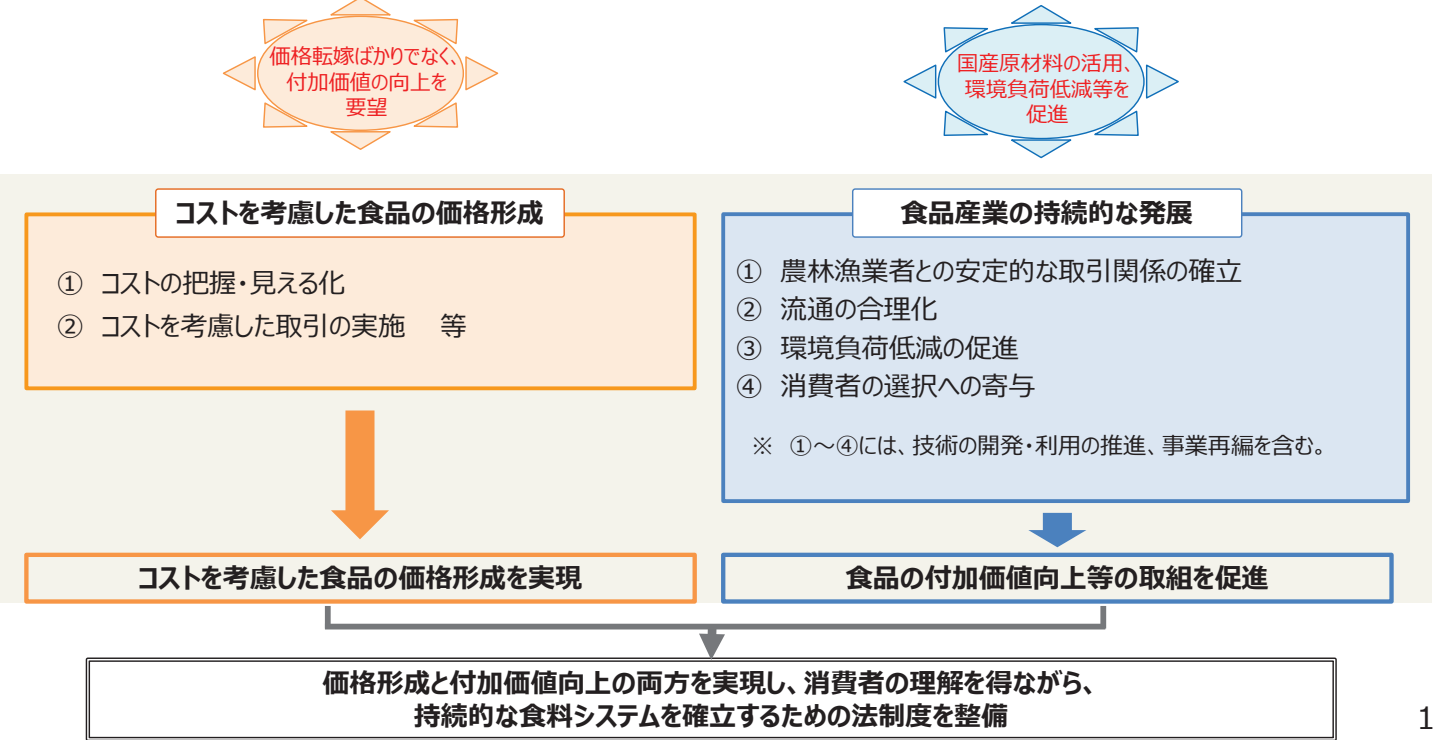


- 持続的な食料システムの確立に向けて、次の施策を法制化。
 - ① 国が策定する基本方針に即し、**食品等事業者等が計画を策定。**
農林漁業者との安定的な取引関係の確立等の取組を実施。
 - ② 国等は、融資・税制等により総合的に支援。



18

- コストを考慮した食品の価格形成に関する議論では、単にコスト上昇による価格転嫁を促すばかりでなく、**国産原材料の活用**や、有機農産物等を通じた**環境負荷の抑制等**により**付加価値の向上**を併せて促進することを求める声。
- このため、**コストを考慮した食品の価格形成**の検討と、**食品産業の持続的な発展**に向けた検討を**表裏一体**の取組として検討。



《参考》コスト構造の実態調査（抜粋）

<目次>

- (1) コスト調査の概要
- (2) キャベツ
 - ✓ 春作・関東産
 - ✓ 夏秋作・関東産その1
 - ✓ 夏秋作・関東産その2
- (3) たまねぎ
 - ✓ 九州産
- (4) 大玉トマト
 - ✓ 夏秋・施設作：北海道・東北産 その1
 - ✓ 夏秋・施設作：北海道・東北産 その2
 - ✓ 冬春・施設作：関東産
 - ✓ 冬春・施設作：九州産
- (5) ピーマン
 - ✓ 夏秋・露地作：北海道・東北産
 - ✓ 冬春・施設作：関東産
 - ✓ 冬春・施設作：九州産
- (6) ばれいしょ
 - ✓ 中晩生・九州産

コスト調査の概要



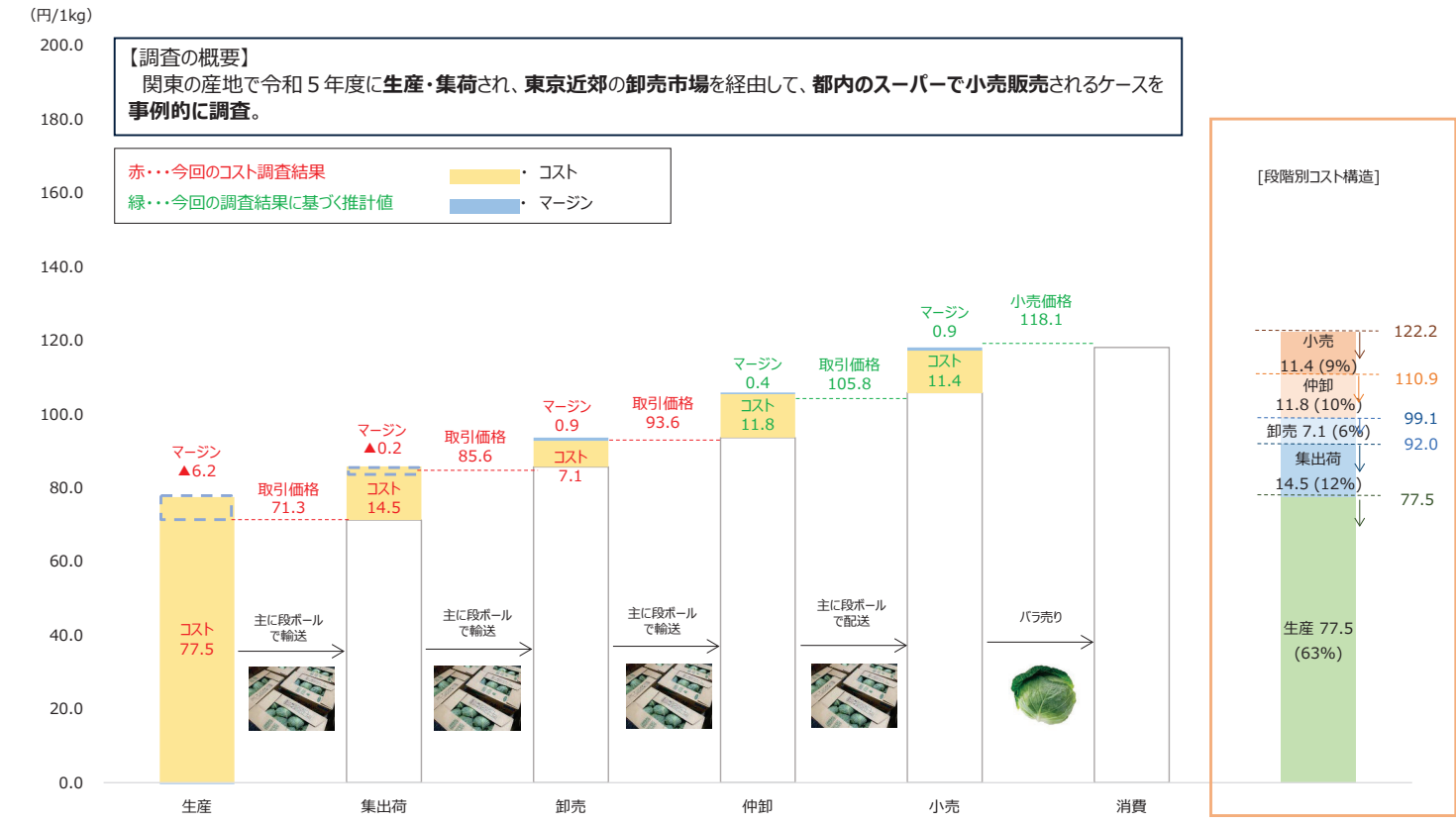
[目的] 主な農産物・食品について、生産から消費に至る**食料システムの各段階**における、生産・製造・流通等に要する**費用や取引価格**を調査し、食料システム全体での**コスト構造を明確化**する。

[調査方法] 食料システムの各段階の事業者に対して、アンケート調査や聞き取り調査等を実施。特定の流通ルートを対象とする**「モデルケース」の調査**。（統計調査ではない。）

生産：農業者、農協など
集出荷：農協など
製造：メーカー
卸売：東京近郊の卸売事業者
仲卸：東京近郊の仲卸事業者
小売：首都圏の食品スーパー

キャベツ

キャベツ（春作：関東産）のコスト調査結果



注1：各段階のコストの数値は、「令和5年度適正取引推進に向けた調査（コスト等に関する調査）」（農林水産省委託事業）を基に作成。当該調査では、首都圏向けに流通するもののコスト構造を事例的に調査。
注2：生産段階・集出荷段階は関東管内のJAを対象としたアンケート調査。卸売段階は開設者（東京都及び横浜市）HPの市場統計情報を活用するとともに、首都圏の卸売市場を対象にアンケート調査。仲卸段階及び小売段階は、取引価格に仲卸及び小売の粗利率・コストの内訳から推計。仲卸のコストとマージンは「仲卸業者の経営状況2022」を基に、小売のコストとマージンは都内を商圏とする小売事業者を対象としたアンケート調査結果を基にした。
注3：四捨五入の関係で、合計しても合わないことがある。

キャベツ（春作：関東産）のコスト構造の各段階内訳

【調査の概要】
関東の産地で令和5年度に生産・集荷され、東京近郊の卸売市場を経由して、都内のスーパーで小売販売されるケースを事例的に調査。

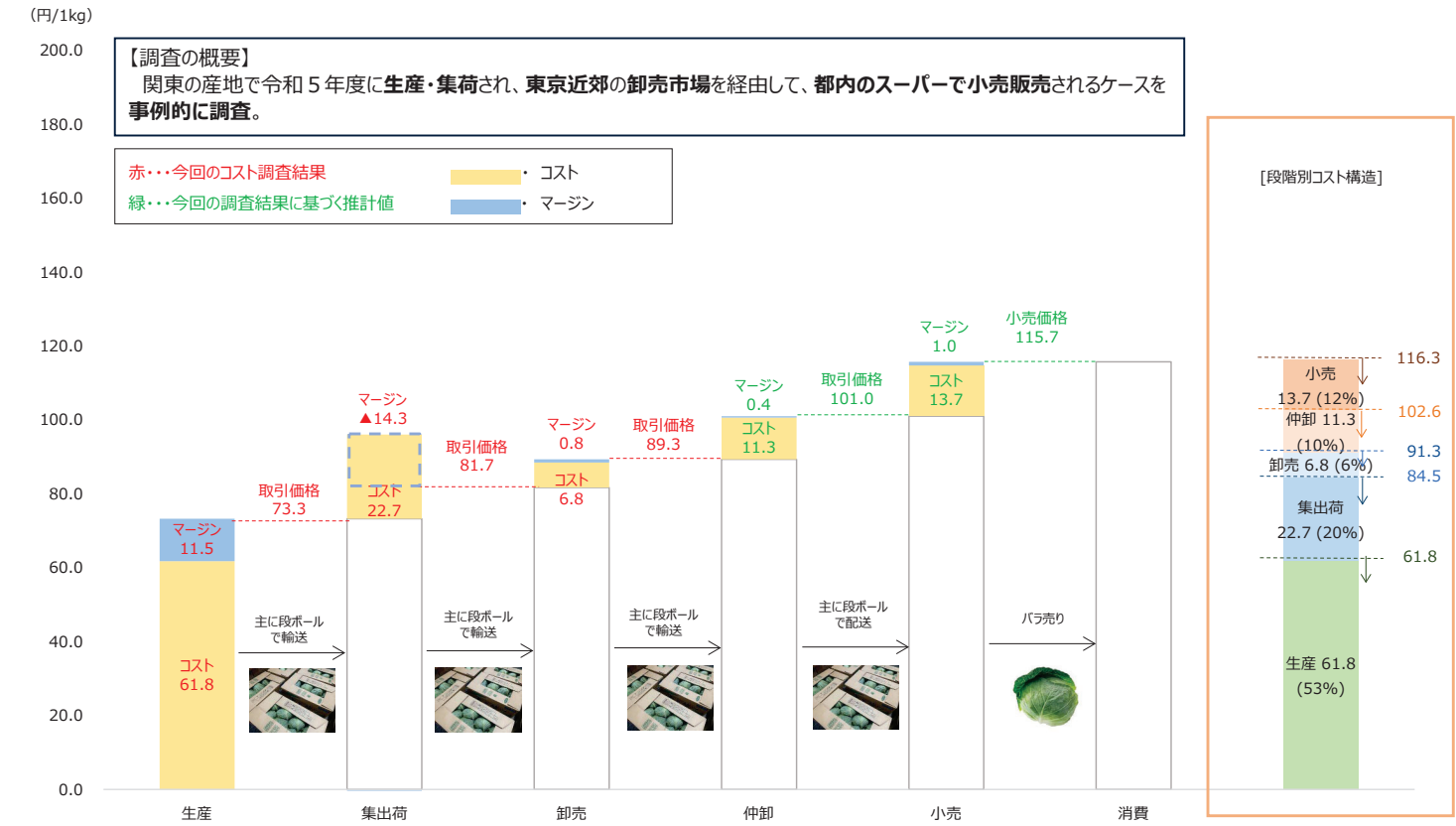
【留意事項】

- 野菜は地域の気象条件を活かした産地リレーより周年供給されており、同一品目でも栽培条件、栽培方法等が異なり、生産コストは様々。このような野菜の特性を踏まえることと示すことは難しいため、特定の地域や企業アンケートをもとに作成したもの。
- 具体的には、生産・集出荷段階は、特定のJAを対象にアンケート調査（地域の栽培暦や行政の経営指標等も参照）。卸売・仲卸段階は、開設者（東京都及び横浜市）公表の市場統計情報を活用。小売段階は、複数の小売事業者から聴取した粗利率等に取り引価格を乗じて販売価格を推計。このため、仲卸価格や小売価格は直接的に実額で把握できた訳ではなく、統計調査の小売価格とは大きく乖離。

(単位) 円/kg									
生産段階		集出荷		卸売		仲卸		小売	
物財費	31.4	選別、包装及び荷造労働費	0.0	完納奨励金	1.0	人件費	5.6	輸送費	1.1
うち種苗費	2.6	包装・荷造材料費	0.0	人件費総額	3.1	その他	6.3	人件費	5.1
肥料費	4.8	出荷運送料・積込料	9.0	水道光熱費	0.1			水道光熱費	0.6
農業費	5.4	上部団体手数料	1.0	賃借料・市場使用料	0.6			その他の経費	4.6
諸材料費	0.7	卸売市場出荷に係る負担金(うち、卸売市場出荷分)	0.0	物流関係費	0.8				
減価償却費	12.0	集荷費	0.0	その他費用	1.5				
小農具費	0.6	予冷費	3.8						
動力光熱費	0.7	保管料	0.0						
修繕費	1.2	処分費	0.0						
共済掛金 等	2.9	販売促進費	0.0						
租税公課	0.5	減価償却費	0.1						
賃料料金	0.0	保守修繕費	0.1						
支払地代	3.1	水道光熱費	0.4						
土地改良費	1.5	人件費	0.1						
労務費	20.7								
生産者負担の包装費	12.7								
生産者負担の荷造経費	7.8								
生産者負担の輸送費	0.3								
合計	77.5	合計	14.5	合計	7.1	合計	11.8	合計	11.4

※ 四捨五入の関係で小計と内訳は必ずしも一致しない。

キャベツ（夏秋作：関東産その１）のコスト調査結果



注１：各段階のコストの数値は、「令和５年度適正取引推進に向けた調査（コスト等に関する調査）」（農林水産省委託事業）を基に作成。当該調査では、首都圏向けに流通するもののコスト構造を事例的に調査。
注２：生産段階・集出荷段階は関東管内のJAを対象としたアンケート調査。卸売段階は開設者（東京都及び横浜市）HPの市場統計情報を活用するとともに、首都圏の卸売市場を対象にアンケート調査。仲卸段階及び小売段階は、取引価格に仲卸及び小売の粗利額・コストの内訳から推計。仲卸のコストとマージンは「仲卸業者の経営状況2022」を基に、小売のコストとマージンは都内を商圏とする小売事業者を対象としたアンケート調査結果を基にした。
注３：四捨五入の関係で、合計しても合わないことがある。

キャベツ（夏秋作：関東産その１）のコスト構造の各段階内訳

【調査の概要】
関東の産地で令和５年度に生産・集荷され、東京近郊の卸売市場を経由して、都内のスーパーで小売販売されるケースを事例的に調査。

【留意事項】

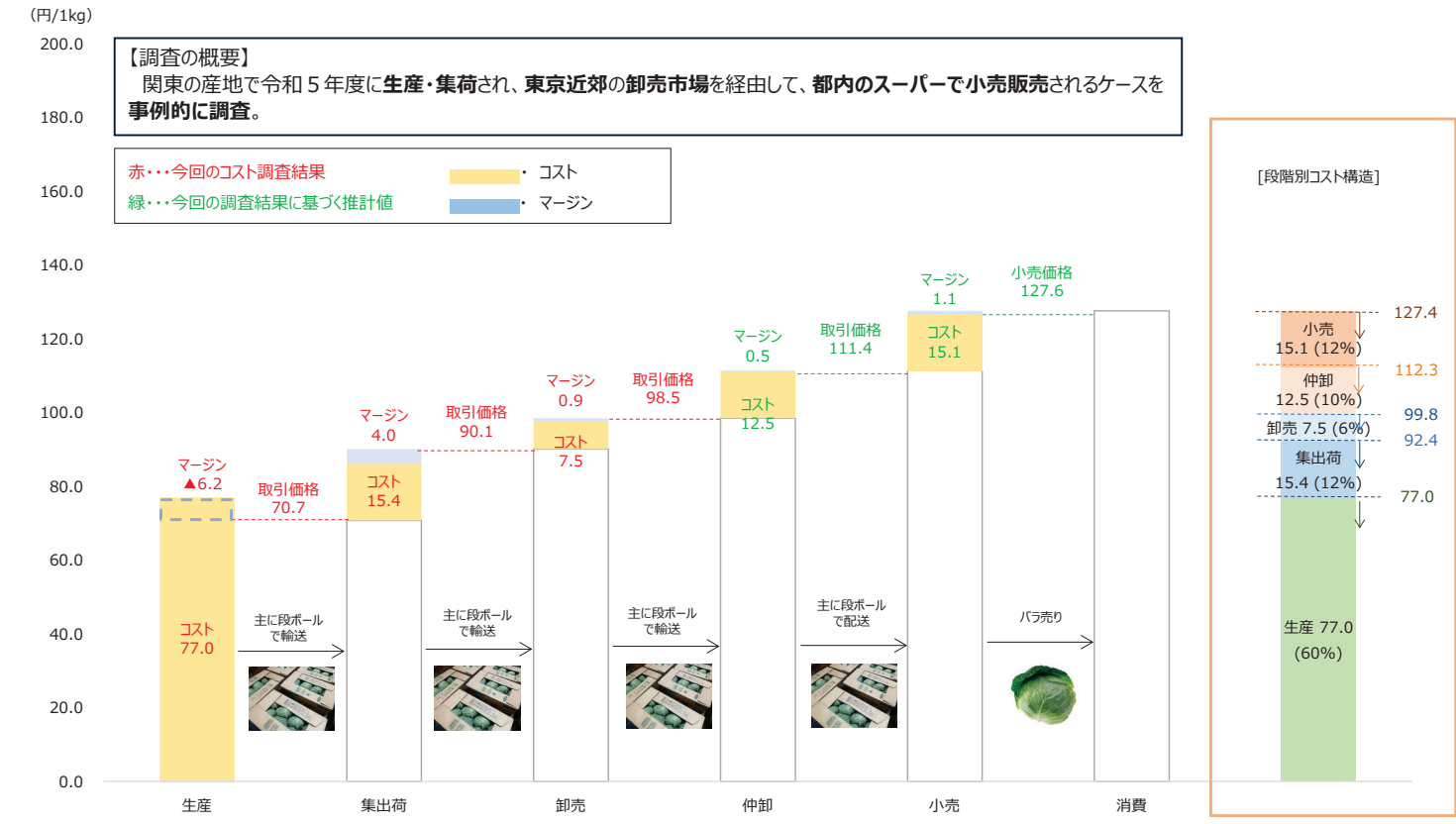
- 野菜は地域の気象条件を活かした産地リレーより周年供給されており、同一品目でも栽培条件、栽培方法等が異なり、生産コストは様々。このような野菜の特性を踏まえることと示すことは難しいため、特定の地域や企業アンケートをもとに作成したもの。
- 具体的には、生産・集出荷段階は、特定のJAを対象にアンケート調査（地域の栽培暦や行政の経営指標等も参照）。卸売・仲卸段階は、開設者（東京都及び横浜市）公表の市場統計情報を活用。小売段階は、複数の小売事業者から聴取した粗利率等に取り引価格を乗じて販売価格を推計。このため、仲卸価格や小売価格は直接的に実額で把握できた訳ではなく、統計調査の小売価格とは大きく乖離。

（単位）円/kg

生産段階		集出荷		卸売		仲卸		小売	
物財費	31.2	選別、包装及び荷造労働費	0.0	完納奨励金	0.9	人件費	5.3	輸送費	1.3
うち種苗費	2.1	包装・荷造材料費	0.0	人件費総額	3.0	その他	6.0	人件費	6.1
肥料費	6.4	出荷運送料・積込料	15.1	水道光熱費	0.1			水道光熱費	0.8
農業費	7.8	上部団体手数料	0.9	賃借料・市場使用料	0.6			その他の経費	5.5
諸材料費	0.9	卸売市場出荷に係る負担金(うち、卸売市場出荷分)	0.8	物流関係費	0.8				
減価償却費	6.6	集荷費	1.7	その他費用	1.5				
小農具費	0.3	予冷費	2.5						
動力光熱費	2.4	保管料	0.0						
修繕費	2.1	処分費	0.0						
共済掛金 等	0.6	販売促進費	0.1						
租税公課	1.5	減価償却費	0.2						
賃料料金	0.5	保守修繕費	0.3						
支払地代	1.6	水道光熱費	0.3						
土地改良費	0.1	人件費	0.9						
労務費	11.1								
生産者負担の包装費	13.0								
生産者負担の荷造経費	4.3								
生産者負担の輸送費	0.5								
合計	61.8	合計	22.7	合計	6.8	合計	11.3	合計	13.7

※ 四捨五入の関係で小計と内訳は必ずしも一致しない。

キャベツ（夏秋作：関東産その２）のコスト調査結果



注 1：各段階のコストの数値は、「令和５年度適正取引推進に向けた調査（コスト等に関する調査）」（農林水産省委託事業）を基に作成。当該調査では、首都圏向けに流通するもののコスト構造を事例的に調査。
注 2：生産段階・集出荷段階は関東管内JAを対象としたアンケート調査。卸売段階は開設者（東京都及び横浜市）HPの市場統計情報を活用するとともに、首都圏の卸売市場を対象にアンケート調査。仲卸段階及び小売段階は、取引価格に仲卸及び小売の粗利額・コストの内訳から推計。仲卸のコストとマージンは「仲卸業者の経営状況2022」を基に、小売のコストとマージンは都内を商圏とする小売事業者を対象としたアンケート調査結果を基にした。
注 3：四捨五入の関係で、合計しても合わないことがある。

キャベツ（夏秋作：関東産その２）のコスト構造の各段階内訳

【調査の概要】
関東の産地で令和５年度に生産・集荷され、東京近郊の卸売市場を経由して、都内のスーパーで小売販売されるケースを事例的に調査。

【留意事項】

- 野菜は地域の気象条件を活かした産地リレーより周年供給されており、同一品目でも栽培条件、栽培方法等が異なり、生産コストは様々。このような野菜の特性を踏まえることと示すことは難しいため、特定の地域や企業アンケートをもとに作成したもの。
- 具体的には、生産・集出荷段階は、特定のJAを対象にアンケート調査（地域の栽培暦や行政の経営指標等も参照）。卸売・仲卸段階は、開設者（東京都及び横浜市）公表の市場統計情報を活用。小売段階は、複数の小売事業者から聴取した粗利率等に取り引価格を乗じて販売価格を推計。このため、仲卸価格や小売価格は直接的に実額で把握できた訳ではなく、統計調査の小売価格とは大きく乖離。

（単位）円/kg

生産段階		集出荷		卸売		仲卸		小売	
物財費	49.2	選別、包装及び荷造労働費	0.0	完納奨励金	1.0	人件費	5.9	輸送費	1.4
うち種苗費	5.2	包装・荷造材料費	0.0	人件費総額	3.3	その他	6.6	人件費	6.7
肥料費	5.2	出荷運送料・積込料	12.8	水道光熱費	0.1			水道光熱費	0.9
農業費	7.2	上部団体手数料	1.0	賃借料・市場使用料	0.6			その他の経費	6.1
諸材料費	3.4	卸売市場出荷に係る負担金(うち、卸売市場出荷分)	0.0	物流関係費	0.8				
減価償却費	20.7	集荷費	0.0	その他費用	1.6				
小農具費	1.2	予冷費	0.0						
動力光熱費	1.3	保管料	0.0						
修繕費	1.0	処分費	0.0						
共済掛金 等	1.5	販売促進費	0.0						
租税公課	2.4	減価償却費	0.5						
賃料料金	0.0	保守修繕費	0.1						
支払地代	1.1	水道光熱費	0.4						
土地改良費	0.0	人件費	0.5						
労務費	13.0								
生産者負担の包装費	8.7								
生産者負担の荷造経費	5.0								
生産者負担の輸送費	0.0								
合計	77.0	合計	15.4	合計	7.5	合計	12.5	合計	15.1

※ 四捨五入の関係で小計と内訳は必ずしも一致しない。

たまねぎ

たまねぎ（九州産）のコスト調査結果



注1：各段階のコストの数値は、「令和5年度適正取引推進に向けた調査（コスト等に関する調査）」（農林水産省）を基に作成。当該調査では、首都圏向けに流通するもののコスト構造を事例的に調査。
注2：生産段階・集出荷段階は九州管内のJAを対象としたアンケート調査。卸売段階は開設者（東京都及び横浜市）HPの市場統計情報を活用するとともに、首都圏の卸売市場を対象にアンケート調査。仲卸段階及び小売段階（※）は、取引価格に仲卸及び小売の粗利額・コストの内訳から推計。仲卸のコストとマージンは「仲卸業者の経営状況2022」を基に、小売のコストとマージンは都内を商圏とする小売事業者を対象としたアンケート調査結果を基にした。
注3：四捨五入の関係で、合計しても合わないことがある。

たまねぎ（九州産）のコスト構造の各段階内訳

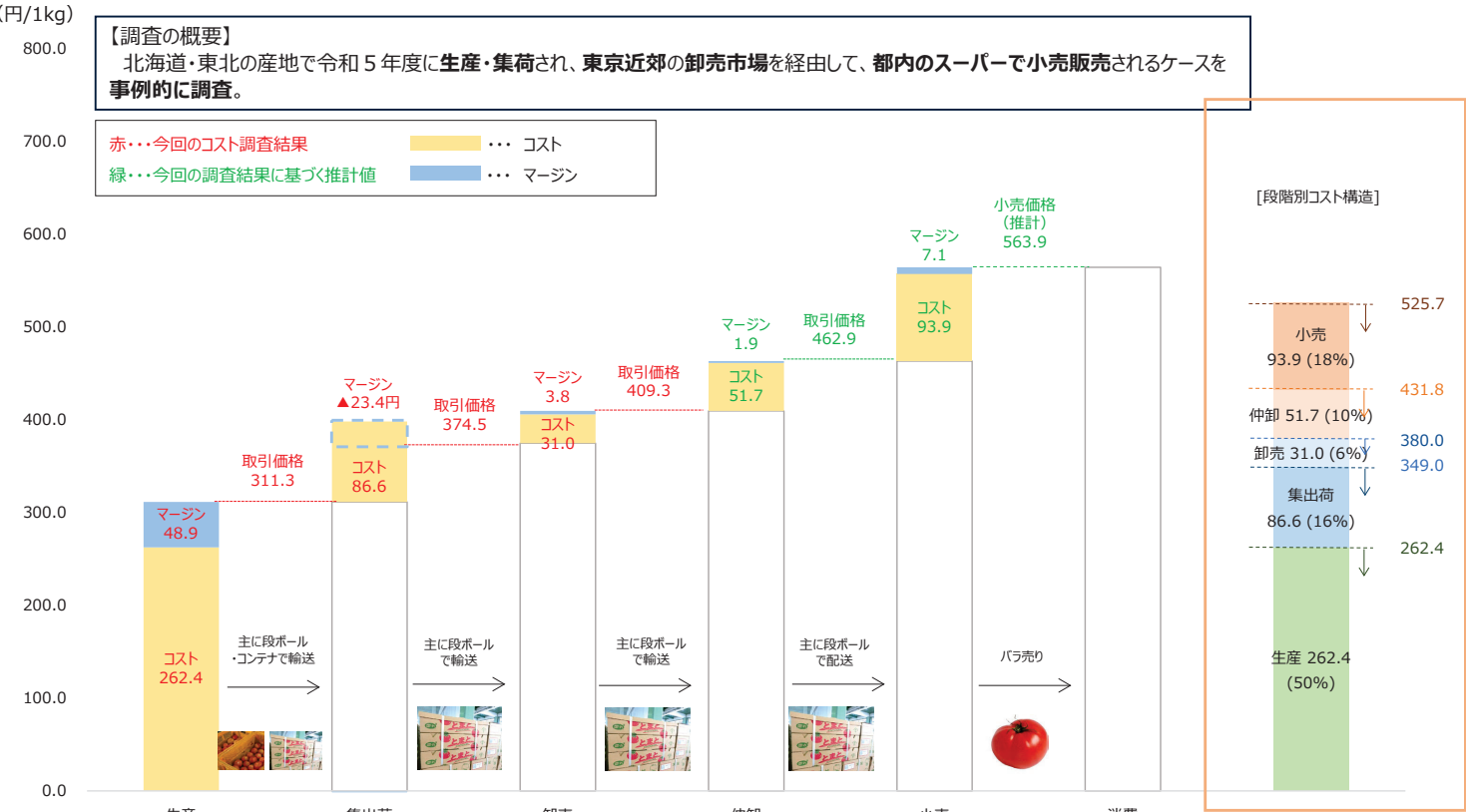
- 【調査の概要】
九州の産地で令和5年度に生産・集荷され、東京近郊の卸売市場を経由して、都内のスーパーで小売販売されるケースを事例的に調査。
- 【留意事項】
- 野菜は地域の気象条件を活かした産地リレーより周年供給されており、同一品目でも栽培条件、栽培方法等が異なり、生産コストは様々。このような野菜の特性を踏まえると一律に示すことは難しいため、特定の地域や企業アンケートをもとに作成したもの。
 - 具体的には、生産・集出荷段階は、特定のJAを対象にアンケート調査（地域の栽培暦や行政の経営指標等も参照）。卸売・仲卸段階は、開設者（東京都及び横浜市）公表の市場統計情報を活用。小売段階は、複数の小売事業者から聴取した粗利率等に取引価格を乗じて販売価格を推計。このため、仲卸価格や小売価格は直接的に実額で把握できた訳ではなく、統計調査の小売価格とは大きく乖離。

(単位) 円/kg

生産段階		集出荷		卸売		仲卸		小売	
物財費	53.2	選別、包装及び荷造労働費	2.5	完納奨励金	1.0	人件費	6.0	輸送費	2.4
うち種苗費	5.0	包装・荷造材料費	6.0	人件費総額	3.4	その他	6.8	人件費	11.2
肥料費	8.2	出荷運送料・積込料	15.4	水道光熱費	0.1			水道光熱費	1.4
農業費	7.7	上部団体手数料	0.0	賃借料・市場使用料	0.6			その他の経費	10.2
諸材料費	2.3	卸売市場出荷に係る負担金(うち、卸売市場出荷分)	0.2	物流関係費	0.9				
減価償却費	14.7	集荷費	0.8	その他費用	1.7				
小農具費	0.3	予冷費	0.0						
動力光熱費	2.8	保管料	0.3						
修繕費	4.1	処分費	0.3						
共済掛金 等	5.0	販売促進費	0.0						
租税公課	3.3	減価償却費	1.4						
賃料料金	0.0	保守修繕費	0.6						
支払地代	0.5	水道光熱費	1.2						
土地改良費	0.0	人件費	1.2						
労務費	14.1								
生産者負担の包装費	1.0								
生産者負担の荷造経費	0.7								
生産者負担の輸送費	0.4								
合計	69.9	合計	29.9	合計	7.7	合計	12.9	合計	25.1

大玉トマト

大玉トマト（夏秋・施設作：北海道・東北産 その１）のコスト調査結果



注１：各段階のコストの数値は、「令和５年度適正取引推進に向けた調査（コスト等に関する調査）」（農林水産省委託事業）を基に作成。当該調査では、首都圏向けに流通するもののコスト構造を事例的に調査。
注２：生産段階・集出荷段階は北海道・東北管内のJAを対象としたアンケート調査。卸売段階は開設者（東京都及び横浜市）HPの市場統計情報を活用するとともに、首都圏の卸売市場を対象にアンケート調査。仲卸段階及び小売段階（※）は、取引価格に仲卸及び小売の粗利額・コストの内訳から推計。仲卸のコストとマージンは「仲卸業者の経営状況2022」を基に、小売のコストとマージンは都内を商圏とする小売事業者を対象としたアンケート調査結果を基にした。
注３：四捨五入の関係で、合計しても合わないことがある。

大玉トマト（夏秋・施設作：北海道・東北産 その１）のコスト構造の各段階内訳

【調査の概要】
北海道・東北の産地で令和５年度に生産・集荷され、東京近郊の卸売市場を経由して、都内のスーパーで小売販売されるケースを事例的に調査。

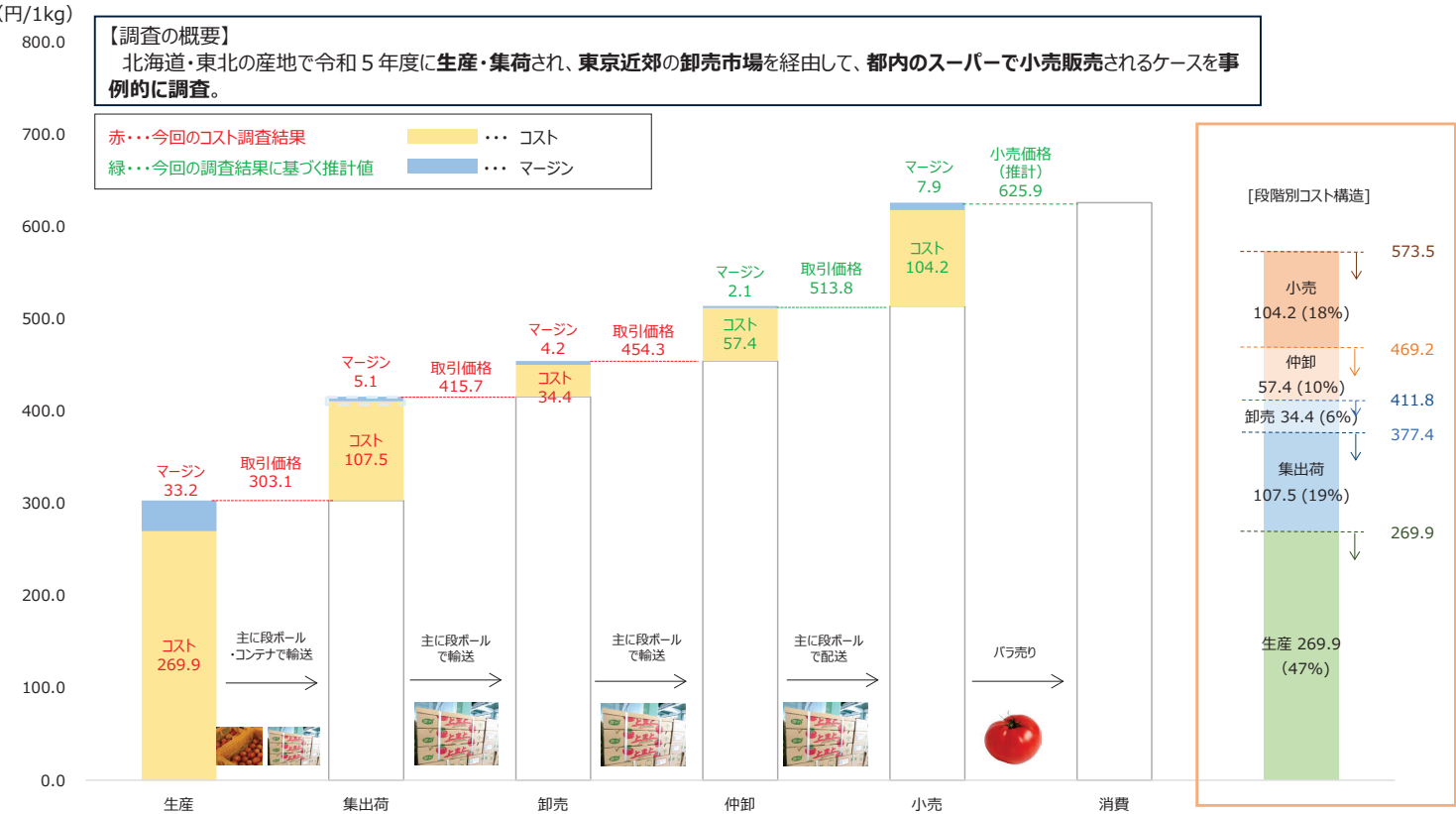
【留意事項】

- 野菜は地域の気象条件を活かした産地リレーより周年供給されており、同一品目でも栽培条件、栽培方法等が異なり、生産コストは様々。このような野菜の特性を踏まえると一律に示すことは難しいため、特定の地域や企業アンケートをもとに作成したもの。
- 具体的には、生産・集出荷段階は、特定のJAを対象にアンケート調査（地域の栽培暦や行政の経営指標等も参照）。卸売・仲卸段階は、開設者（東京都及び横浜市）公表の市場統計情報を活用。小売段階は、複数の小売事業者から聴取した粗利率等に取引価格を乗じて販売価格を推計。このため、仲卸価格や小売価格は直接的に実額で把握できた訳ではなく、統計調査の小売価格とは大きく乖離。

（単位）円/kg

生産段階		集出荷		卸売		仲卸		小売	
物財費	155.7	選別、包装及び荷造労働費	16.4	完納奨励金	4.2	人件費	24.3	輸送費	8.8
うち種苗費	20.8	包装・荷造材料費	14.7	人件費総額	13.6	その他	27.4	人件費	41.8
肥料費	12.2	出荷運送料・積込料	31.9	水道光熱費	0.5			水道光熱費	5.4
農業費	2.7	上部団体手数料	0.3	賃借料・市場使用料	2.5			その他の経費	37.9
諸材料費	12.0	卸売市場出荷に係る負担金(うち、卸売市場出荷分)	0.3	物流関係費	3.4				
減価償却費	51.7	集荷費	0.0	その他費用	6.7				
小農具費	0.7	予冷費	2.3						
動力光熱費	19.7	保管料	0.2						
修繕費	3.4	処分費	0.4						
共済掛金 等	8.6	販売促進費	0.1						
租税公課	23.8	減価償却費	1.0						
賃料料金	0.1	保守修繕費	2.8						
支払地代	0.3	水道光熱費	0.9						
土地改良費	0.3	人件費	15.3						
労務費	99.7								
生産者負担の包装費	4.4								
生産者負担の荷造経費	1.3								
生産者負担の輸送費	0.8								
合計	262.4	合計	86.6	合計	31.0	合計	51.7	合計	93.9

大玉トマト（夏秋・施設作：北海道・東北産 その２）のコスト調査結果



注１：各段階のコストの数値は、「令和５年度適正取引推進に向けた調査（コスト等に関する調査）」（農林水産省委託事業）を基に作成。当該調査では、首都圏向けに流通するもののコスト構造を事例的に調査。

注２：生産段階・集出荷段階は北海道・東北管内のJAを対象としたアンケート調査。卸売段階は開設者（東京都及び横浜市）HPの市場統計情報を活用するとともに、首都圏の卸売市場を対象にアンケート調査。仲卸段階及び小売段階（※）は、取引価格に仲卸及び小売の粗利額・コストの内訳から推計。仲卸のコストとマージンは「仲卸業者の経営状況2022」を基に、小売のコストとマージンは都内を商圏とする小売事業者を対象としたアンケート調査結果を基にした。

注３：四捨五入の関係で、合計しても合わないことがある。

大玉トマト（夏秋・施設作：北海道・東北産 その２）のコスト構造の各段階内訳

【調査の概要】

北海道・東北の産地で令和５年度に生産・集荷され、東京近郊の卸売市場を経由して、都内のスーパーで小売販売されるケースを事例的に調査。

【留意事項】

- 野菜は地域の気象条件を活かした産地リレーより周年供給されており、同一品目でも栽培条件、栽培方法等が異なり、生産コストは様々。このような野菜の特性を踏まえると一律に示すことは難しいため、特定の地域や企業アンケートをもとに作成したもの。
- 具体的には、生産・集出荷段階は、特定のJAを対象にアンケート調査（地域の栽培暦や行政の経営指標等も参照）。卸売・仲卸段階は、開設者（東京都及び横浜市）公表の市場統計情報を活用。小売段階は、複数の小売事業者から聴取した粗利率等に取引価格を乗じて販売価格を推計。このため、仲卸価格や小売価格は直接的に実額で把握できた訳ではなく、統計調査の小売価格とは大きく乖離。

（単位）円/kg

生産段階		集出荷		卸売		仲卸		小売	
物財費	136.5	選別、包装及び荷造労働費	30.3	完納奨励金	4.6	人件費	27.0	輸送費	9.8
うち種苗費	17.0	包装・荷造材料費	28.3	人件費総額	15.1	その他	30.4	人件費	46.4
肥料費	11.2	出荷運送料・積込料	16.1	水道光熱費	0.6			水道光熱費	5.9
農業費	5.4	上部団体手数料	6.4	賃借料・市場使用料	2.8			その他の経費	42.1
諸材料費	35.2	卸売市場出荷に係る負担金(うち、卸売市場出荷分)	0.2	物流関係費	3.8				
減価償却費	58.3	集荷費	0.8	その他費用	7.4				
小農具費	1.8	予冷費	0.6						
動力光熱費	2.0	保管料	0.0						
修繕費	1.9	処分費	0.1						
共済掛金 等	3.4	販売促進費	0.0						
租税公課	0.5	減価償却費	5.6						
賃料料金	0.0	保守修繕費	1.9						
支払地代	0.0	水道光熱費	2.9						
土地改良費	0.0	人件費	14.2						
労務費	126.9								
生産者負担の包装費	2.9								
生産者負担の荷造経費	0.9								
生産者負担の輸送費	2.5								
合計	269.9	合計	107.5	合計	34.4	合計	57.4	合計	104.2

大玉トマト（冬春・施設作：関東産）のコスト調査結果



注1：各段階のコストの数値は、「令和5年度適正取引推進に向けた調査（コスト等に関する調査）」（農林水産省委託事業）を基に作成。当該調査では、首都圏向けに流通するもののコスト構造を事例的に調査。
注2：生産段階・集出荷段階は関東管内のJAを対象としたアンケート調査。卸売段階は開設者（東京都及び横浜市）HPの市場統計情報を活用するとともに、首都圏の卸売市場を対象にアンケート調査。仲卸段階及び小売段階（※）は、取引価格に仲卸及び小売の粗利額・コストの内訳から推計。仲卸のコストとマージンは「仲卸業者の経営状況2022」を基に、小売のコストとマージンは都内を商圏とする小売事業者を対象としたアンケート調査結果を基にした。
注3：四捨五入の関係で、合計しても合わないことがある。

大玉トマト（冬春・施設作：関東産）のコスト構造の各段階内訳

【調査の概要】
関東の産地で令和5年度に生産・集荷され、東京近郊の卸売市場を経由して、都内のスーパーで小売販売されるケースを事例的に調査。

【留意事項】

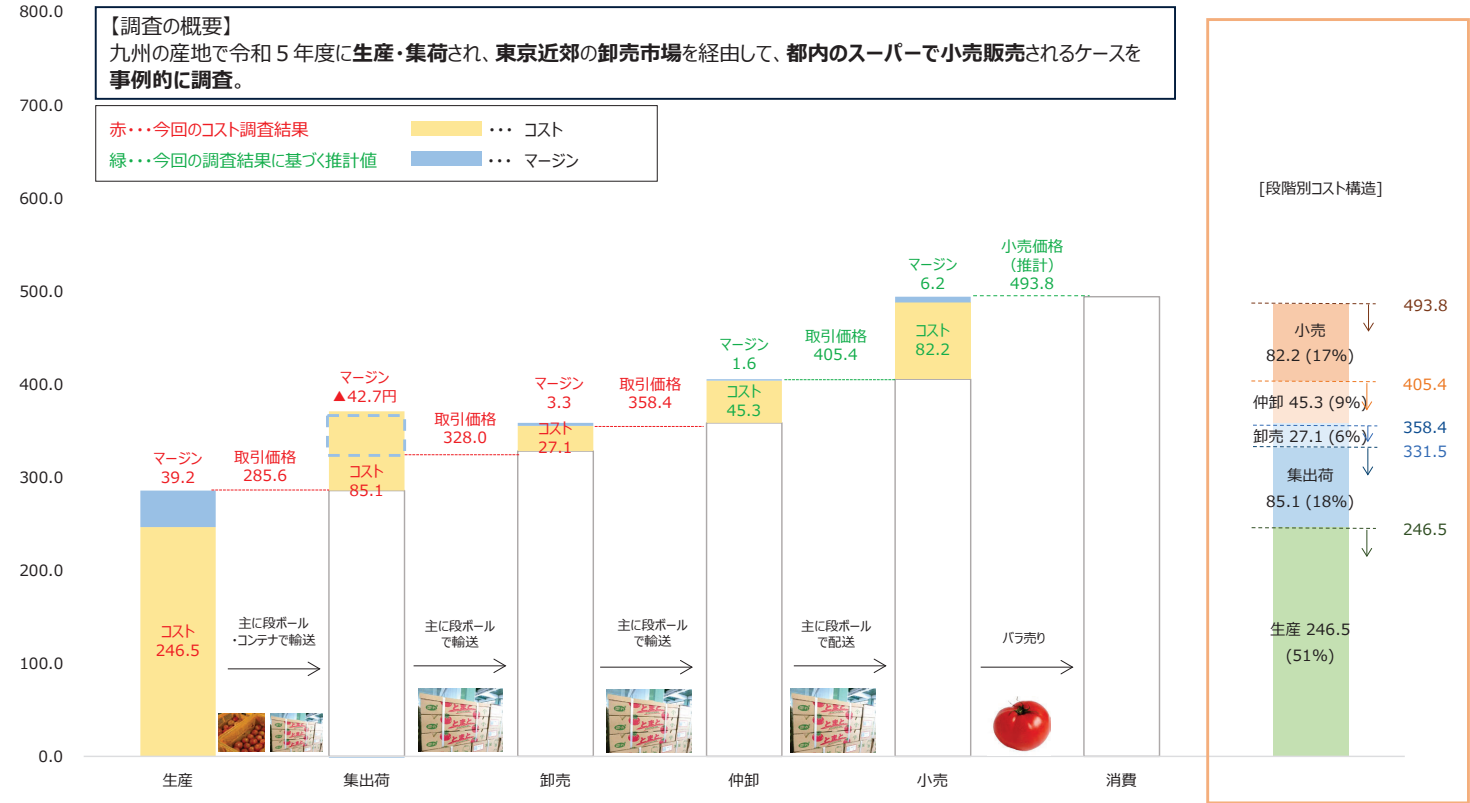
- 野菜は地域の気象条件を活かした産地リレーより周年供給されており、同一品目でも栽培条件、栽培方法等が異なり、生産コストは様々。このような野菜の特性を踏まえると一律に示すことは難しいため、特定の地域や企業アンケートをもとに作成したもの。
- 具体的には、生産・集出荷段階は、特定のJAを対象にアンケート調査（地域の栽培暦や行政の経営指標等も参照）。卸売・仲卸段階は、開設者（東京都及び横浜市）公表の市場統計情報を活用。小売段階は、複数の小売事業者から聴取した粗利率等に取引価格を乗じて販売価格を推計。このため、仲卸価格や小売価格は直接的に実額で把握できた訳ではなく、統計調査の小売価格とは大きく乖離。

（単位）円/kg

生産段階		集出荷		卸売		仲卸		小売	
物財費	178.7	選別、包装及び荷造労働費	21.9	完納奨励金	3.5	人件費	20.2	輸送費	7.3
うち種苗費	13.0	包装・荷造材料費	8.8	人件費総額	11.3	その他	22.8	人件費	34.8
肥料費	5.7	出荷運送料・積込料	8.8	水道光熱費	0.5			水道光熱費	4.5
農業費	9.1	上部団体手数料	3.2	賃借料・市場使用料	2.1			その他の経費	31.5
諸材料費	9.3	卸売市場出荷に係る負担金(うち、卸売市場出荷分)	0.9	物流関係費	2.9				
減価償却費	72.0	集荷費	0.0	その他費用	5.6				
小農具費	0.2	予冷費	0.0						
動力光熱費	47.7	保管料	0.0						
修繕費	2.7	処分費	0.0						
共済掛金 等	1.6	販売促進費	1.3						
租税公課	5.0	減価償却費	5.2						
賃料料金	12.3	保守修繕費	0.9						
支払地代	0.0	水道光熱費	0.9						
土地改良費	0.2	人件費	12.1						
労務費	69.9								
生産者負担の包装費	13.5								
生産者負担の荷造経費	0.2								
生産者負担の輸送費	0.7								
合計	263.2	合計	63.9	合計	25.8	合計	43.0	合計	78.1

大玉トマト（冬春・施設作：九州産）のコスト調査結果

(円/kg)



大玉トマト（冬春・施設作：九州産）のコスト構造の各段階内訳

【調査の概要】
九州の産地で令和5年度に生産・集荷され、東京近郊の卸売市場を経由して、都内のスーパーで小売販売されるケースを事例的に調査。

【留意事項】

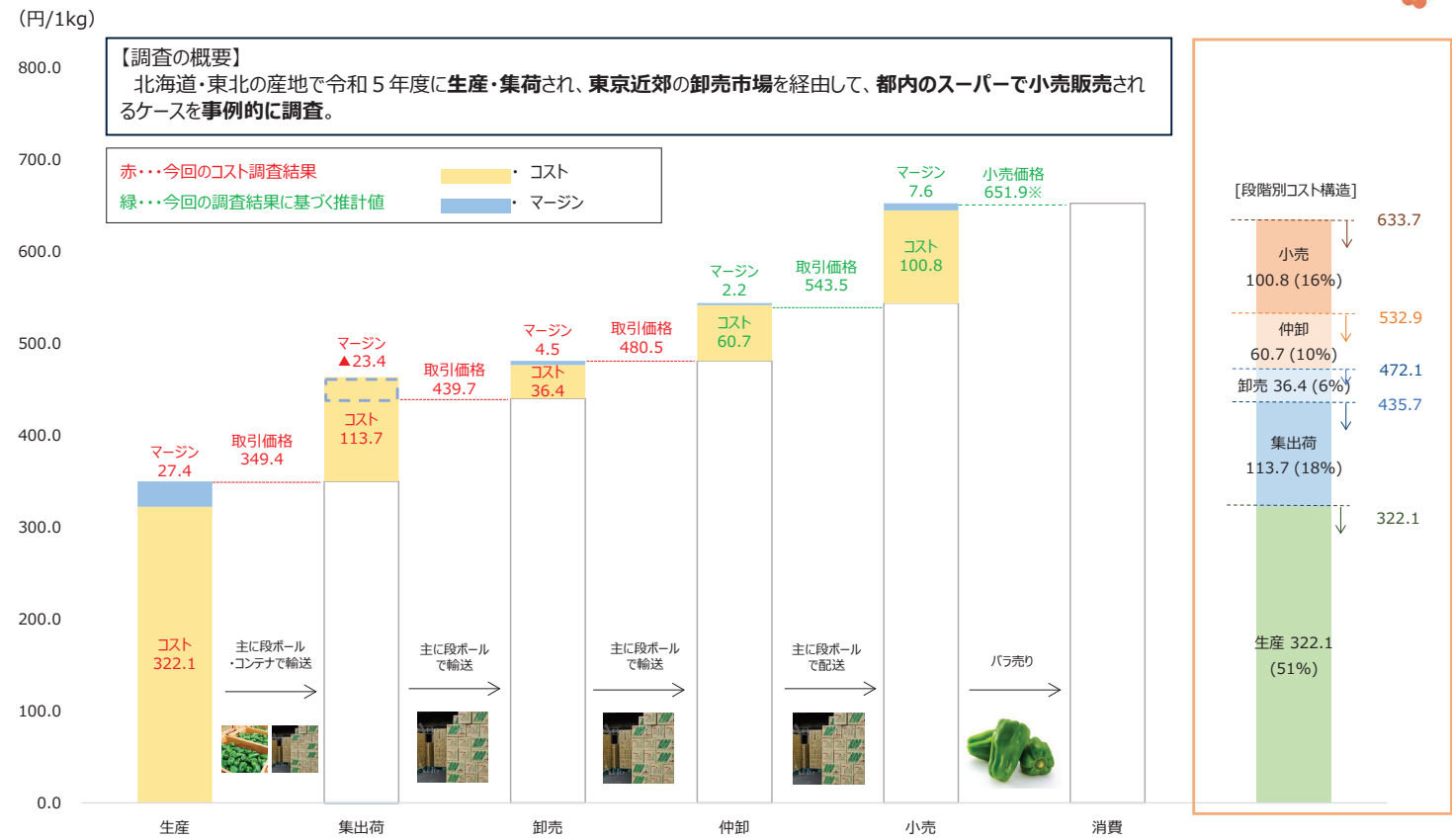
- 野菜は地域の気象条件を活かした産地リレーより周年供給されており、同一品目でも栽培条件、栽培方法等が異なり、生産コストは様々。このような野菜の特性を踏まえると一律に示すことは難しいため、特定の地域や企業アンケートをもとに作成したもの。
- 具体的には、生産・集出荷段階は、特定のJAを対象にアンケート調査（地域の栽培暦や行政の経営指標等も参照）。卸売・仲卸段階は、開設者（東京都及び横浜市）公表の市場統計情報を活用。小売段階は、複数の小売事業者から聴取した粗利率等に取引価格を乗じて販売価格を推計。このため、仲卸価格や小売価格は直接的に実額で把握できた訳ではなく、統計調査の小売価格とは大きく乖離。

(単位) 円/kg

生産段階		集出荷		卸売		仲卸		小売	
物財費	155.4	選別、包装及び荷造労働費	12.8	完納奨励金	3.7	人件費	21.3	輸送費	7.7
うち種苗費	18.9	包装・荷造材料費	27.6	人件費総額	11.9	その他	24.0	人件費	36.6
肥料費	14.1	出荷運送料・積込料	27.6	水道光熱費	0.5			水道光熱費	4.7
農業費	6.8	上部団体手数料	4.9	賃借料・市場使用料	2.2			その他の経費	33.2
諸材料費	23.5	卸売市場出荷に係る負担金(うち、卸売市場出荷分)	3.5	物流関係費	3.0				
減価償却費	38.7	集荷費	0.0	その他費用	5.8				
小農具費	2.3	予冷費	0.0						
動力光熱費	40.0	保管料	0.0						
修繕費	5.3	処分費	0.0						
共済掛金 等	2.7	販売促進費	0.7						
租税公課	3.1	減価償却費	4.4						
賃料料金	0.0	保守修繕費	1.0						
支払地代	3.1	水道光熱費	0.6						
土地改良費	0.3	人件費	1.7						
労務費	86.9								
生産者負担の包装費	0.0								
生産者負担の荷造経費	0.0								
生産者負担の輸送費	0.6								
合計	246.5	合計	85.1	合計	27.1	合計	45.3	合計	82.2

ピーマン

ピーマン（夏秋・露地作：北海道・東北産）のコスト調査結果



注1：各段階のコストの数値は、「令和5年度適正取引推進に向けた調査（コスト等に関する調査）」（農林水産省委託事業）を基に作成。当該調査では、首都圏向けに流通するもののコスト構造を事例的に調査。
注2：生産段階・集出荷段階は関東管内のJAを対象としたアンケート調査。卸売段階は開設者（東京都及び横浜市）HPの市場統計情報を活用するとともに、首都圏の卸売市場を対象にアンケート調査。仲卸段階及び小売段階（※）は、取引価格に仲卸及び小売の粗利額・コストの内訳から推計。仲卸のコストとマージンは「仲卸業者の経営状況2022」を基に、小売のコストとマージンは都内を商圏とする小売事業者を対象としたアンケート調査結果を基にした。
注3：四捨五入の関係で、合計しても合わないことがある。

ピーマン（夏秋・露地作：北海道・東北産）のコスト構造の各段階内訳

【調査の概要】
北海道・東北の産地で令和5年度に生産・集荷され、東京近郊の卸売市場を経由して、都内のスーパーで小売販売されるケースを事例的に調査。

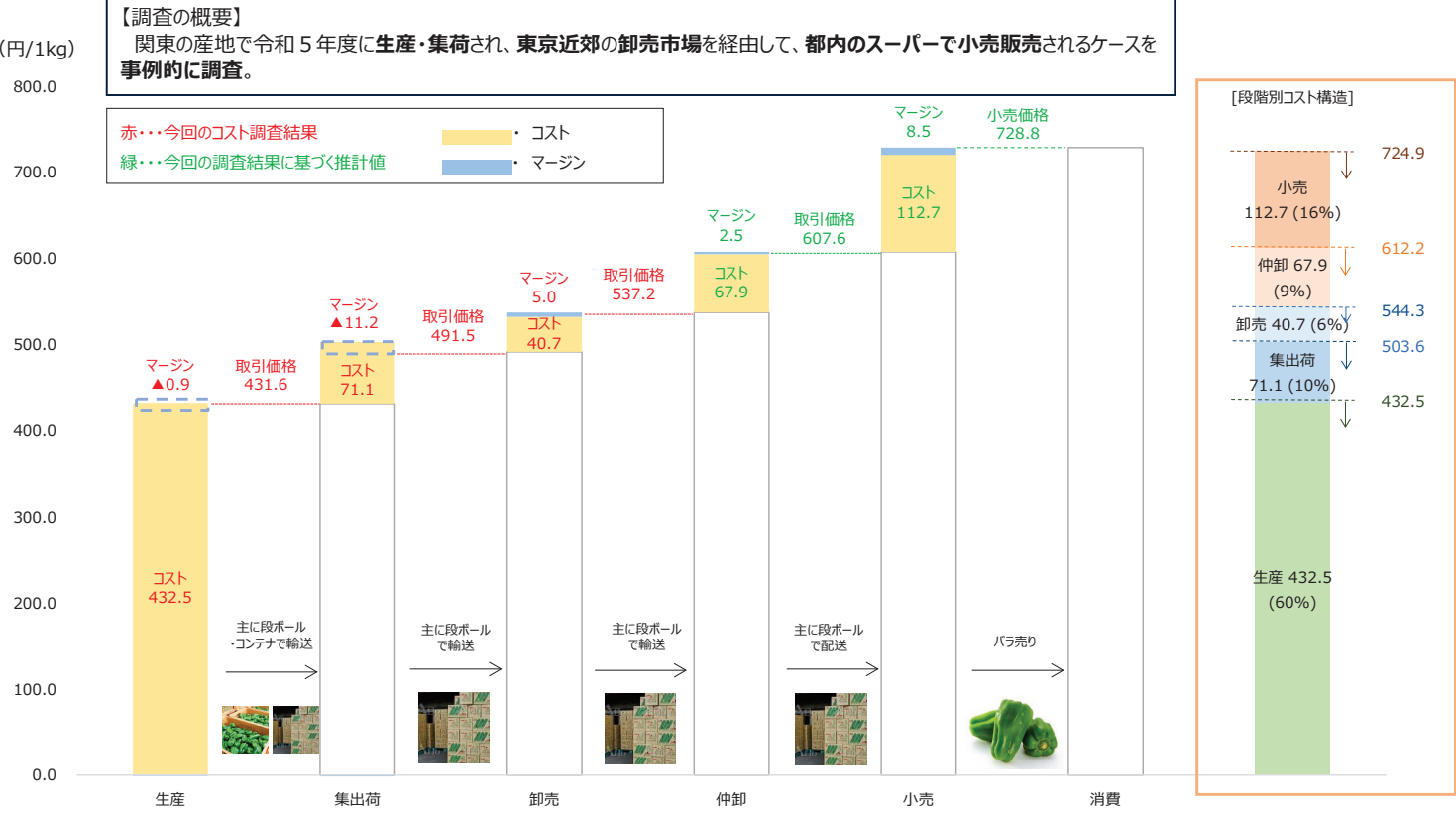
【留意事項】

- 野菜は地域の気象条件を活かした産地リレーより周年供給されており、同一品目でも栽培条件、栽培方法等が異なり、生産コストは様々。このような野菜の特性を踏まえると一律に示すことは難しいため、特定の地域や企業アンケートをもとに作成したもの。
- 具体的には、生産・集出荷段階は、特定のJAを対象にアンケート調査（地域の栽培暦や行政の経営指標等も参照）。卸売・仲卸段階は、開設者（東京都及び横浜市）公表の市場統計情報を活用。小売段階は、複数の小売事業者から聴取した粗利率等に取引価格を乗じて販売価格を推計。このため、仲卸価格や小売価格は直接的に実額で把握できた訳ではなく、統計調査の小売価格とは大きく乖離。

(単位) 円/kg

生産段階	集出荷	卸売	仲卸	小売
物財費	158.9	28.8	4.9	28.6
うち種苗費	24.6	34.3	16.0	44.9
肥料費	16.1	19.1	0.6	5.8
農業費	12.3	8.4	3.0	40.7
諸材料費	19.0	0.4	4.0	
減価償却費	63.8	1.8	7.8	
小農具費	0.5	1.8		
動力光熱費	0.9	0.0		
修繕費	18.1	0.1		
共済掛金 等	1.4	0.0		
租税公課	2.2	8.9		
賃料料金	0.0	1.1		
支払地代	0.0	3.4		
土地改良費	0.0	5.6		
労務費	126.0			
生産者負担の包装費	0.0			
生産者負担の荷造経費	26.6			
生産者負担の輸送費	10.6			
合計	322.1	113.7	36.4	60.7
				合計 100.8

ピーマン（冬春・施設作：関東産）のコスト調査結果



注1：各段階のコストの数値は、「令和5年度適正取引推進に向けた調査（コスト等に関する調査）」（農林水産省委託事業）を基に作成。当該調査では、首都圏向けに流通するもののコスト構造を事例的に調査。
注2：生産段階・集出荷段階は関東管内のJAを対象としたアンケート調査。卸売段階は開設者（東京都及び横浜市）HPの市場統計情報を活用するとともに、首都圏の卸売市場を対象にアンケート調査。仲卸段階及び小売段階（※）は、取引価格に仲卸及び小売の粗利額・コストの内訳から推計。仲卸のコストとマージンは「仲卸業者の経営状況2022」を基に、小売のコストとマージンは都内を商圏とする小売事業者を対象としたアンケート調査結果を基にした。
注3：四捨五入の関係で、合計しても合わないことがある。

ピーマン（冬春・施設作：関東産）のコスト構造の各段階内訳

【調査の概要】
関東の産地で令和5年度に生産・集荷され、東京近郊の卸売市場を経由して、都内のスーパーで小売販売されるケースを事例的に調査。

【留意事項】

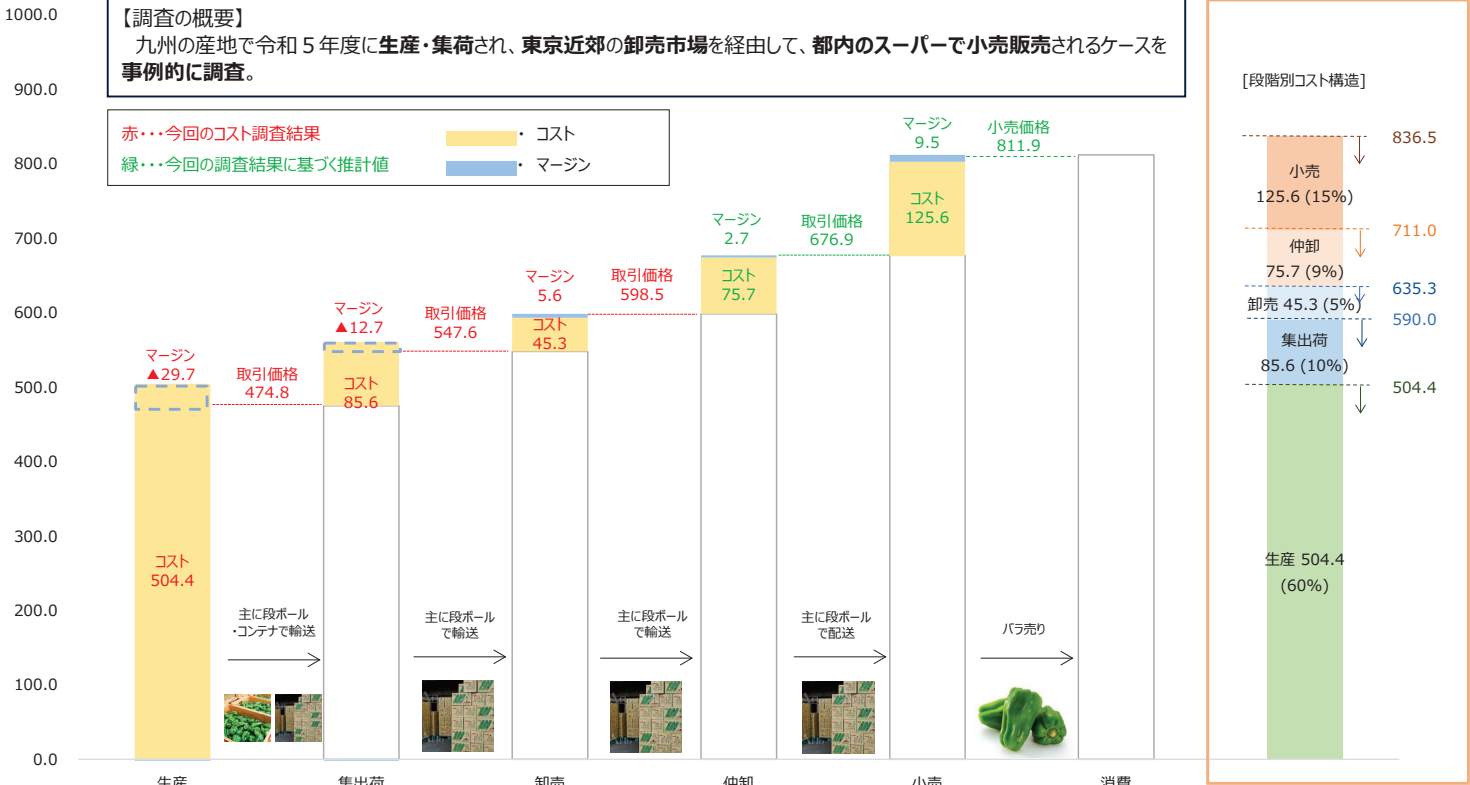
- 野菜は地域の気象条件を活かした産地リレーより周年供給されており、同一品目でも栽培条件、栽培方法等が異なり、生産コストは様々。このような野菜の特性を踏まえると一律に示すことは難しいため、特定の地域や企業アンケートをもとに作成したもの。
- 具体的には、生産・集出荷段階は、特定のJAを対象にアンケート調査（地域の栽培暦や行政の経営指標等も参照）。卸売・仲卸段階は、開設者（東京都及び横浜市）公表の市場統計情報を活用。小売段階は、複数の小売事業者から聴取した粗利率等に取引価格を乗じて販売価格を推計。このため、仲卸価格や小売価格は直接的に実額で把握できた訳ではなく、統計調査の小売価格とは大きく乖離。

(単位) 円/kg

生産段階	集出荷	卸売	仲卸	小売
物財費	281.1	11.4	5.5	31.9
うち種苗費	9.9	22.7	17.8	36.0
肥料費	17.6	11.5	0.7	6.4
農業費	9.4	3.5	3.3	45.5
諸材料費	17.7	0.0	4.5	
減価償却費	55.3	0.0	8.8	
小農具費	0.0	0.0		
動力光熱費	154.4	0.0		
修繕費	15.0	0.0		
共済掛金 等	0.0	0.1		
租税公課	1.8	5.6		
賃料料金	0.0	2.1		
支払地代	0.0	1.3		
土地改良費	0.0	13.0		
労務費	148.9			
生産者負担の包装費	0.0			
生産者負担の荷造経費	0.0			
生産者負担の輸送費	2.4			
合計	432.5	71.1	40.7	112.7

ピーマン（冬春・施設作：九州産）のコスト調査結果

(円/1kg)



注1：各段階のコストの数値は、「令和5年度適正取引推進に向けた調査（コスト等に関する調査）」（農林水産省委託事業）を基に作成。当該調査では、首都圏向けに流通するもののコスト構造を事例的に調査。
注2：生産段階・集出荷段階は関東管内のJAを対象としたアンケート調査。卸売段階は開設者（東京都及び横浜市）HPの市場統計情報を活用するとともに、首都圏の卸売市場を対象にアンケート調査。仲卸段階及び小売段階（※）は、取引価格に仲卸及び小売の粗利額・コストの内訳から推計。仲卸のコストとマージンは「仲卸業者の経営状況2022」を基に、小売のコストとマージンは都内を商圏とする小売事業者を対象としたアンケート調査結果を基にした。
注3：四捨五入の関係で、合計しても合わないことがある。

ピーマン（冬春・施設作：九州産）のコスト構造の各段階内訳

【調査の概要】

九州の産地で令和5年度に生産・集荷され、東京近郊の卸売市場を経由して、都内のスーパーで小売販売されるケースを事例的に調査。

【留意事項】

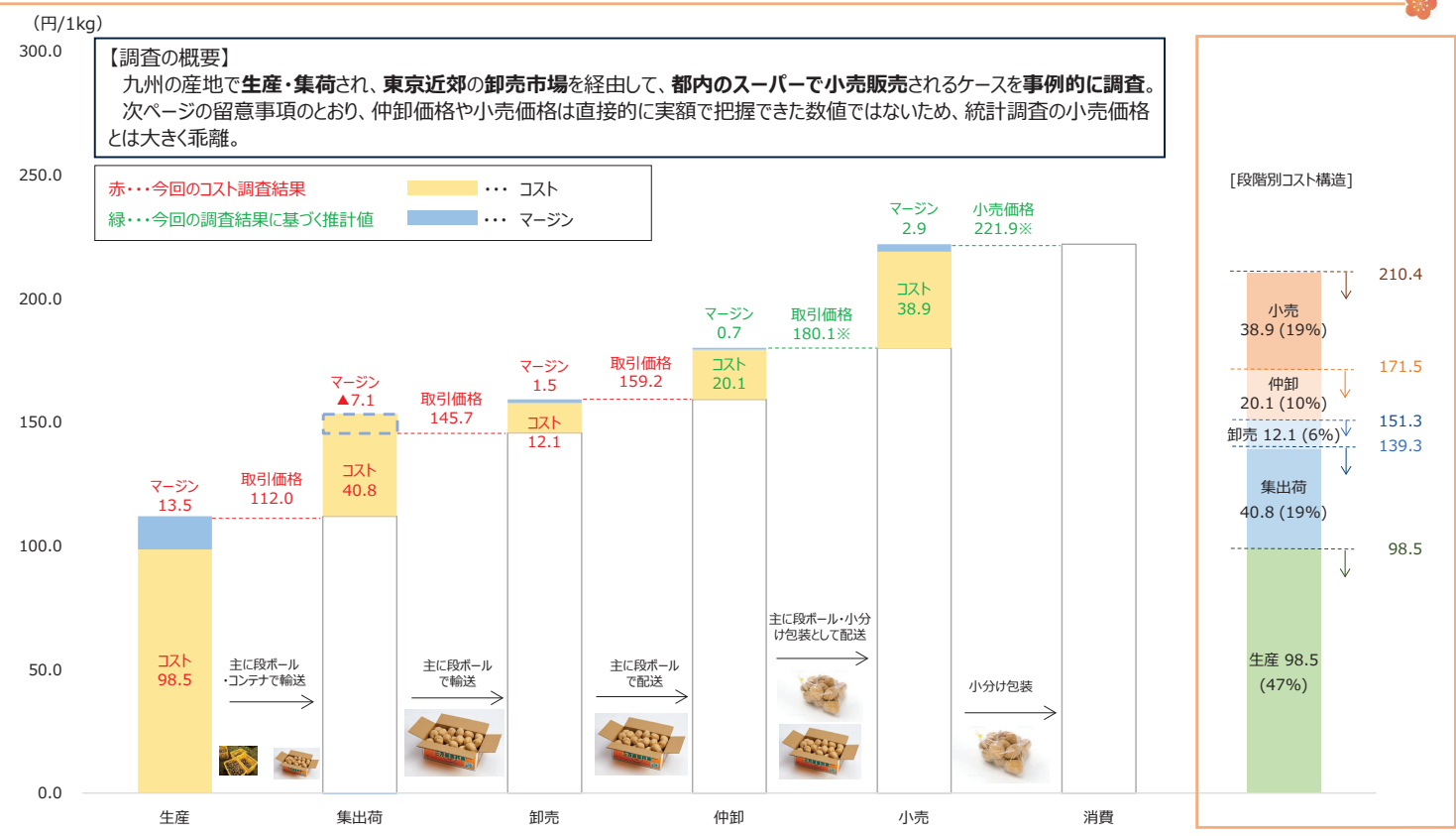
- 野菜は地域の気象条件を活かした産地リレーより周年供給されており、同一品目でも栽培条件、栽培方法等が異なり、生産コストは様々。このような野菜の特性を踏まえると一律に示すことは難しいため、特定の地域や企業アンケートをもとに作成したもの。
- 具体的には、生産・集出荷段階は、特定のJAを対象にアンケート調査（地域の栽培暦や行政の経営指標等も参照）。卸売・仲卸段階は、開設者（東京都及び横浜市）公表の市場統計情報を活用。小売段階は、複数の小売事業者から聴取した粗利率等に取引価格を乗じて販売価格を推計。このため、仲卸価格や小売価格は直接的に実額で把握できた訳ではなく、統計調査の小売価格とは大きく乖離。

(単位) 円/kg

生産段階		集出荷		卸売		仲卸		小売	
物財費	315.6	選別、包装及び荷造労働費	13.7	完納奨励金	6.1	人件費	35.6	輸送費	11.8
うち種苗費	10.9	包装・造造材料費	23.5	人件費総額	19.9	その他	40.1	人件費	55.9
肥料費	17.3	出荷運送料・積込料	32.2	水道光熱費	0.8			水道光熱費	7.2
農業費	18.3	上部団体手数料	2.6	賃借料・市場使用料	3.7			その他の経費	50.7
諸材料費	18.3	卸売市場出荷に係る負担金(うち、卸売市場出荷分)	0.3	物流関係費	5.0				
減価償却費	111.2	集荷費	0.7	その他費用	9.8				
小農具費	2.2	予冷費	1.3						
動力光熱費	125.2	保管料	0.9						
修繕費	4.1	処分費	0.0						
共済掛金 等	2.7	販売促進費	0.1						
租税公課	5.5	減価償却費	1.6						
賃料料金	0.0	保守修繕費	0.5						
支払地代	0.0	水道光熱費	1.4						
土地改良費	0.4	人件費	6.6						
労務費	160.8								
生産者負担の包装費	25.1								
生産者負担の荷造経費	1.4								
生産者負担の輸送費	1.1								
合計	504.4	合計	85.6	合計	45.3	合計	75.7	合計	125.6

ばれいしょ

ばれいしょ（中晩生・九州産）のコスト調査結果



注 1：各段階のコストの数値は、「令和 5 年度適正取引推進に向けた調査（コスト等に関する調査）」（農林水産省委託事業）を基に作成。当該調査では、首都圏向けに流通するもののコスト構造を事例的に調査。
注 2：生産段階・集出荷段階は九州管内のJAを対象としたアンケート調査。卸売段階は開設者（東京都及び横浜市）HPの市場統計情報を活用するとともに、首都圏の卸売市場を対象にアンケート調査。仲卸段階及び小売段階（※）は、取引価格に仲卸及び小売の粗利額・コストの内訳から推計。仲卸のコストとマージンは「仲卸業者の経営状況2022」を基に、小売のコストとマージンは都内を商圏とする小売事業者を対象としたアンケート調査結果を基にした。
注 3：四捨五入の関係で、合計しても合わないことがある。

ばれいしょのコスト構造の各段階内訳（中晩生・九州産）

【調査の概要】
九州の産地で令和 5 年度に生産・集荷され、東京近郊の卸売市場を経由して、都内のスーパーで小売販売されるケースを事例的に調査。

【留意事項】

- 野菜は地域の気象条件を活かした産地リレーより周年供給されており、同一品目でも栽培条件、栽培方法等が異なり、生産コストは様々。このような野菜の特性を踏まえる
と一律に示すことは難しいため、特定の地域や企業アンケートをもとに作成したもの。
- 具体的には、生産・集出荷段階は、特定のJAを対象にアンケート調査（地域の栽培暦や行政の経営指標等も参照）。卸売・仲卸段階は、開設者（東京都及び横浜
市）公表の市場統計情報を活用。小売段階は、複数の小売事業者から聴取した粗利率等取引価格を乗じて販売価格を推計。このため、仲卸価格や小売価格は直接的
に実額で把握できた訳ではなく、統計調査の小売価格とは大きく乖離。

(単位) 円/kg

生産段階		集出荷		卸売		仲卸		小売	
物財費	69.5	選別、包装及び荷造労働費	12.2	完納奨励金	1.6	人件費	9.5	輸送費	3.7
うち種苗費	15.4	包装・荷造材料費	9.4	人件費総額	5.3	その他	10.7	人件費	17.3
肥料費	8.5	出荷運送料・積込料	14.8	水道光熱費	0.2			水道光熱費	2.2
農業費	22.5	上部団体手数料	1.1	賃借料・市場使用料	1.0			その他の経費	15.7
諸材料費	4.6	卸売市場出荷に係る負担金(うち、卸売市場出荷分)	0.0	物流関係費	1.3				
減価償却費	7.6	集荷費	0.0	その他費用	2.6				
小農具費	0.2	予冷費	0.0						
動力光熱費	2.3	保管料	0.0						
修繕費	2.6	処分費	0.0						
共済掛金 等	0.0	販売促進費	0.1						
租税公課	2.8	減価償却費	2.2						
賃料料金	3.1	保守修繕費	0.1						
支払地代	0.7	水道光熱費	0.0						
土地改良費	2.7	人件費	0.8						
労務費	23.9								
生産者負担の包装費	0.0								
生産者負担の荷造経費	1.4								
生産者負担の輸送費	0.2								
合計	98.5	合計	40.8	合計	12.1	合計	20.1	合計	38.9

※ 四捨五入の関係で小計と内訳は必ずしも一致しない。